

ライフコースの多様性をとらえる

ー JGSS-2009 ライフコース調査の設計に関するノートー

佐々木 尚之

大阪商業大学 JGSS 研究センター

岩井 八郎

京都大学大学院教育学研究科

岩井 紀子

大阪商業大学総合経営学部

保田 時男

大阪商業大学総合経営学部

Investigating the Diversified Patterns of Life Course:
Notes on JGSS-2009 Life Course Research Design

Takayuki SASAKI
Osaka University of
Commerce

Hachiro IWAI
Kyoto University

Noriko IWAI
Osaka University of
Commerce

Tokio YASUDA
Osaka University of
Commerce

The diversified patterns of life course among Japanese are in progress. In addition to the popularization of higher education, late marriage, and low birthrate, there has been a clear increase in the number of non-regular employment, the frequency of job transfer, and the number of individuals who have multiple jobs. Such trend has increased the complexity of life courses among Japanese. For the purpose of capturing the existing condition of diversified working styles and life styles, JGSS Research Center at Osaka University of Commerce conducted a retrospective life course study in January 2009 with a sample of 6,000 men and women who are between 28 to 42 years old. In the process of making the survey forms, we conducted a pretest among 30 men and women who live in Kansai area. This article outlines research design innovations in an effort to assess people's career paths as multiple parallel lines, not as a single line. Hearings conducted immediately after filling the survey forms disclosed that the diversified working styles in young adults were beyond expectation.

Key Words: JGSS, life course research, research design

日本人のライフコースの多様化が急速に進行している。高学歴化や晩婚・少子化に加えて、非正規雇用の拡大、転職の高まり、副業を持つ人々の増加などを反映して、ライフコースは複雑化の程度を増している。人々の働き方と暮らし方の実態と意識をとらえるために、大阪商業大学 JGSS 研究センターは、28～42 歳の男女 6000 人を対象として、遡及法によるライフコース調査を 2009 年 1 月に実施した。対象者には、学卒後に雇用が比較的安定していた年齢層（アラフォーを含む）と厳しくなった年齢層が含まれている。調査に先立ち、関西圏在住の 28～32 歳、33～37 歳、38～42 歳の各年齢層の男女 5 名ずつ 30 名を対象にプリテストを実施した。本稿では、職業経歴を一本の線ではなく重なりを持ち、平行する複数の線としてとらえるための調査設計上の工夫について、プリテストの結果に基づいて紹介する。プリテストでのヒアリングでは、就業形態が予想以上に複雑化していることが判明した。

キーワード：JGSS, ライフコース調査, 調査設計

1. 本稿の目的

1990年代半ばより、グローバル化した経済状況の下で、男女を問わず、若年層から高齢者まですべての年齢段階を通じて働き方が急速に多様化し、就業や暮らしに関する意識も大きく変化してきた。とりわけ、非正規雇用の拡大、転職の頻度の高まり、副業を持つ人々の増加などが、20歳代から30歳代の世代で顕著に表れており、高学歴化や晩婚化も進行して、この年齢層の人生パターンは複雑化の程度を増している。超高齢化社会の現実と直面する日本社会では、世代間と世代内の負担の公平性をいかに確保できるかが重大な政策課題になっているが、そのためにも、この年齢層の働き方や考え方を正確に把握することが重要な意味を持つ。

そこで、大阪商業大学 JGSS 研究センターでは、これまで7回にわたり実施している本調査とは別に、28～42歳の男女6000人を対象として、特別調査『働き方と暮らしについての調査』を2009年1月～3月に実施した。この調査（以下 JGSS ライフコース調査と呼ぶ）では、人々の働き方や暮らし方の実態と意識を把握することを目指しており、遡及法を用いて、人々の教育歴と職業経歴について詳しく尋ねている。たとえば、職業経歴に関するこれまでの調査では、副業の有無について尋ねることがあっても、その内容について詳細な情報を求めることはなかった。複数の仕事を持っていたとしても、それぞれの時期について主な仕事一つについて尋ねていた。しかしながら近年の多様化した就業形態を考えると、そもそも主な仕事を一つに絞ることが難しいというケースが少なからずあると思われる。また、ある仕事をやめてから次の仕事に就くのではなく、ある仕事をしながら次の仕事を始めて、次第に次の仕事にシフトするケースもあるだろう。つまり職業経歴は、一本の線として描けるのではなく、重なりを持ち、平行する複数の線として表す方が適切ではないだろうか。

今回の JGSS ライフコース調査⁽¹⁾では、プリテストとして、30名の対象者に詳細な聞き取り調査を実施した。その際、主な仕事一つに絞って回答を求めるのではなく、これまで就いてきた仕事すべて（その詳細に程度の差はあるが）の情報を得ようとした。そしてその経験を踏まえて、本調査の調査票を作成した。本稿では、職業経歴を複線的に把握するという JGSS ライフコース調査の設計について、プリテストの結果を紹介しながら説明する。次節では、今回の調査方法を企画するに至った社会的背景として、就業形態の多様化の実態について把握しておこう。

2. JGSS ライフコース調査の背景

JGSS ライフコース調査は、2008年12月31日時点で28～42歳の男女を対象とする。年齢幅が15歳であるので、便宜的に5歳間隔の出生コホートに区分し、それぞれのコホートが就業を開始した時期の特徴をみておこう。1966年から70年生まれ（38～42歳）が就業を始めた、1980年代後半から1990年初頭にかけては、バブル経済の絶頂期にあたる。図1が示すように、どの年齢層でも失業率が非常に低かった。1971年から75年出生コホート（33～37歳）には、第2次ベビーブーム世代が含まれており、20歳代前半を1990年代半ば頃に過ごしている。この時期には、どの年齢層でも失業率が上昇している。さらに1976年から80年出生コホートになると、20歳代前半が1990年代後半以降になる。明らかに、失業率が急速に高まった時期である。

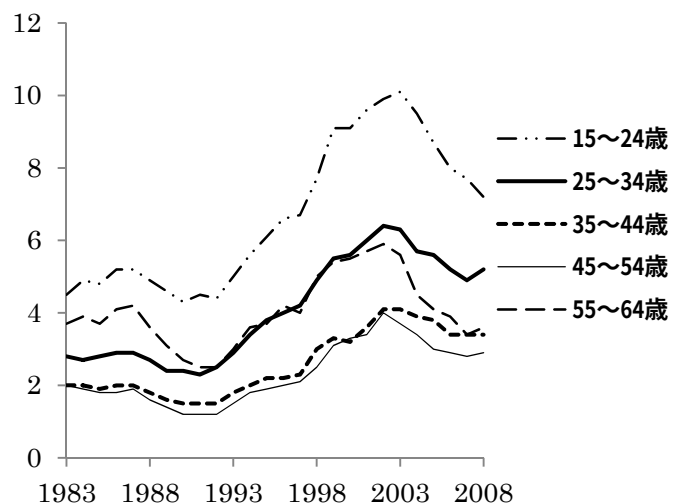


図1 年齢階級別完全失業率の推移
出所 総務省統計局『労働力調査』⁽²⁾

図2は、雇用者に占める非正規雇用の割合の推移を男女別にグラフにしたものである。雇用者に占める、パート、アルバイトのほか、派遣や契約・嘱託社員のような非正規雇用の割合は、年々上昇する傾向にある。まず、本調査の調査対象者が含まれる35～44歳の男性に注目してみると、この年齢層は他に比べて上昇が緩やかであり、この年齢層が25～34歳であった1998年頃の割合を見ても、非正規雇用の割合が上昇カーブを描く直前である。この年齢層の男性は、就業を開始した時期から、雇用が比較的安定していたと言えるだろう。

一方、25～34歳の男性の非正規雇用の割合は、2008年には13%になっており、雇用形態の流動化が進んだことがわかる。従来から非正規雇用の割合の高い女性の場合は、2008年には35歳以上の年齢層で55%を超え、1990年代後半から一段と上昇している。この時期には25～34歳の女性の場合も上昇を続けて、2008年では40%を超えている。

若年層の雇用環境が大きな分岐点を迎えたのは、1970年代前半に生まれた第二次ベビーブーム世代が就業を開始した1990年代半ばである。この時期は、バブル崩壊後の「失われた10年」と呼ばれ、経済不況のみならず世相の混乱期であった。図1と図2が示すように、雇用状況が急激に悪化し、完全失業率が上昇し、非正規雇用も拡大した。JGSS ライフコース調査の対象者には、雇用の安定した時期に就業を開始した層と、不安定化した後に就業を開始した層が含まれており、両者を比較することが可能である。

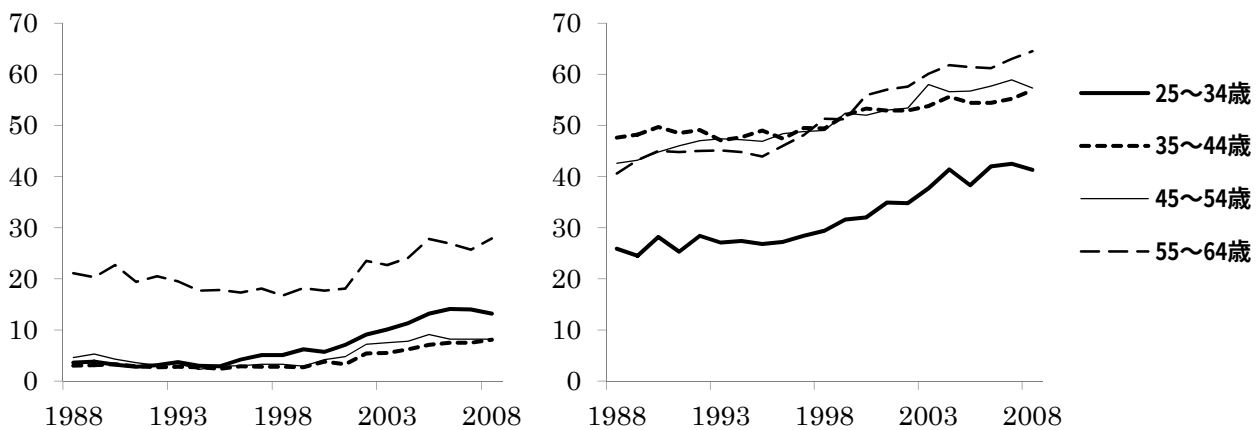


図2 役員を除く雇用者に占める非正規雇用の割合（左：男性、右：女性）

出所 総務省統計局『労働力調査』⁽³⁾

若年層における非正規雇用の拡大は、労働者派遣法の改正と無縁ではないことは、しばしば指摘されている。労働者派遣法は、1987年に施行されたが、当時は、ソフトウェア開発や通訳・翻訳・速記などの13の専門職に限られており、派遣期間も9ヶ月～1年と短期間であった。その後、法改正を繰り返し、とくに、1999年の改正では、対象業務が、製造業や建築、医療などの一部を除いて原則自由化され、派遣期間は1年～3年間と延長された。さらに、2003年の改正では、対象業務が一層拡大され、製造業や、医療関連業務の一部が加えられ、派遣期間は業務によって、3年間または派遣労働者が望む限り無制限とされた。図2からも1999年頃に非正規雇用比率の増加が始まり、2003年以降のさらなる増加が読み取れる。

総務省統計局が実施する『労働力調査』では、2002年以降、非正規雇用の形態をより詳しく尋ねている。図3-1と図3-2は、非正規雇用を「パート・アルバイト」「派遣」「契約・嘱託社員」「その他」に分類し、2002年から2007年までの割合の推移を示している。男性の場合、15～24歳でパート・アルバイトが多く、55～64歳で契約・嘱託社員が多い。2002年から2007年までに大きな変化は見られないが、派遣に注目すると、15～24歳と25～34歳でやや増加していることがわかる。

女性の場合を見ると、年齢段階が上がるとパート・アルバイトの割合が高まるが、2002年からの5年間で大きな変化はない。ただし「派遣」の割合は、25～34歳の女性の場合、2002年から2007年にかけて、3.6%から6.2%へと高まっている。契約・嘱託社員の割合も、じわじわと増えている。

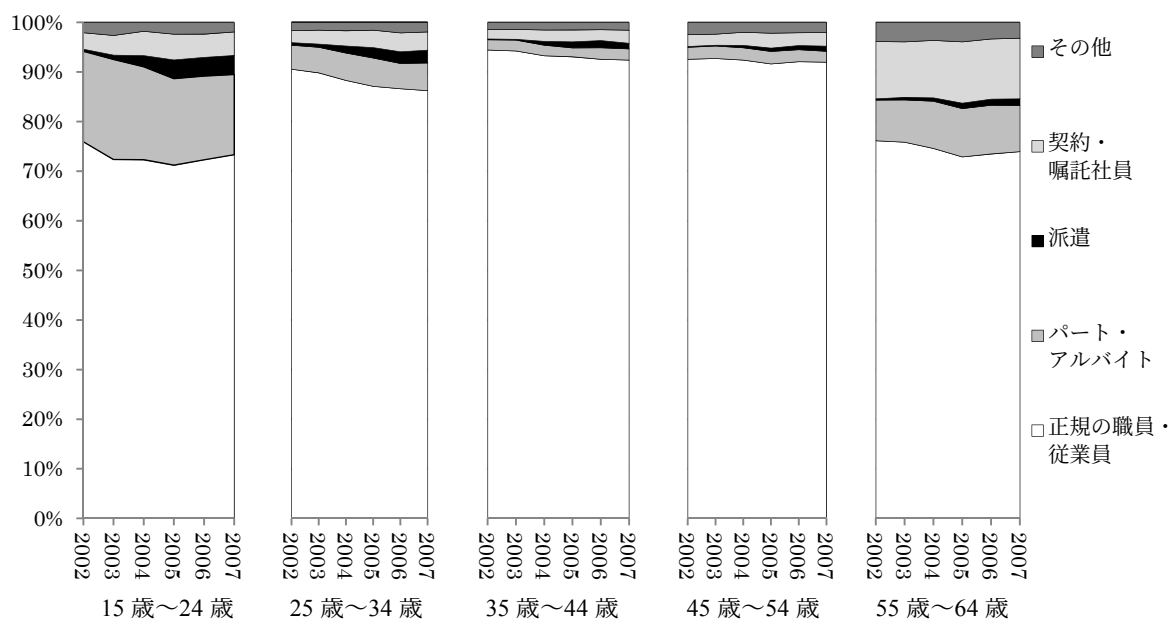


図 3-1 年齢階級別、雇用形態比率の推移（男性）

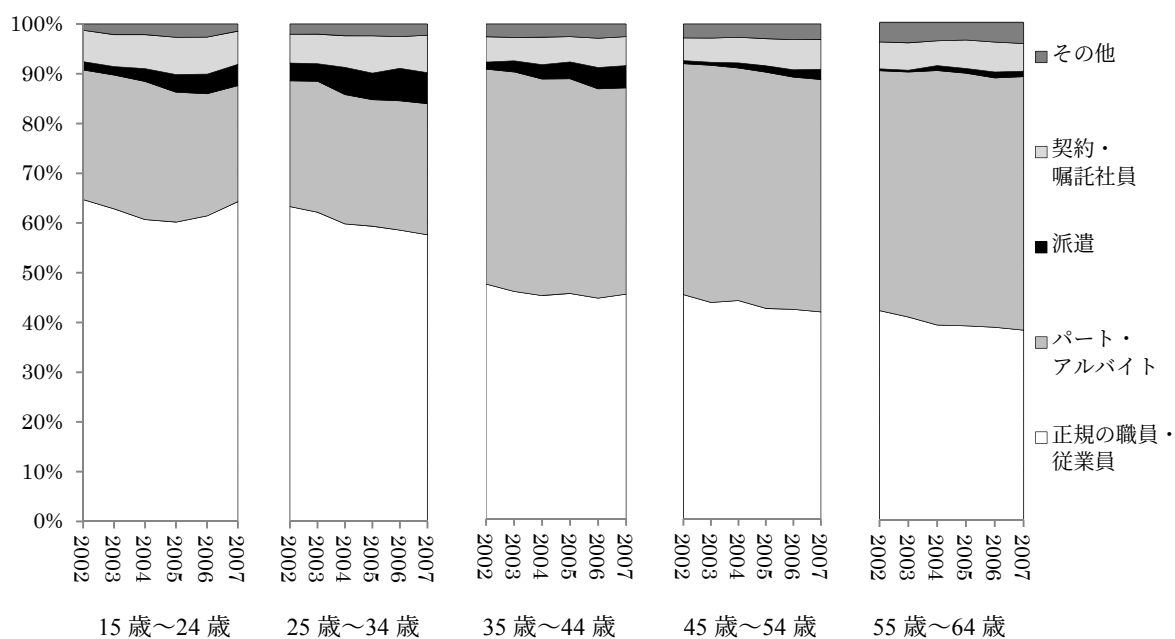
出所 総務省統計局『労働力調査』⁽⁴⁾

図 3-2 年齢階級別、雇用形態比率の推移（女性）

出所 総務省統計局『労働力調査』

働き方のこのような変化は、ライフスタイルそのものにも変化をもたらしていると考えられる。佐藤（2008）は、JGSS 累積データ 2000-2003 のデータを用いて、20 代の正規雇用者と非正規雇用者の年収を比較している。正規雇用者の年収は非正規雇用者に比べて、男性でおよそ 2.5 倍、女性でおよそ 3.5 倍である。また未婚率については、20 代、30 代の男性の場合、正規雇用者に比べて非正規雇用者において未婚率が高い。一方、女性では逆に非正規雇用者に比べて正規雇用者において未婚率が高くなっている。男性においては、経済力の低い非正規雇用者の婚姻が難しいことは明らかであろう。女性においては、結婚後に非正規雇用に移行するパターンが根強いことがわかる。

働き方と婚姻状況の男女差に関しては、厚生労働省が全国の20～34歳の男女を2002年から毎年追跡している『21世紀成年者縦断調査』の結果からもわかる。図4は、第一回調査で独身であった者が4年後までに結婚するか否かを雇用状況別に示している。

男性の場合、正規雇用者の18%が結婚するが、非正規雇用者、無職者ではそれぞれ9.1%、6.2%である。しかし女性の場合、働き方と結婚する割合の間には明確な関係はない。婚外子が非常に稀な日本では、男性の働き方が結婚行動ならびに子どもの有無に関係しているのであろう。また正規雇用者と非正規雇用者の所得差は、消費行動や余暇活動にも大きな影響を及ぼしているであろう。

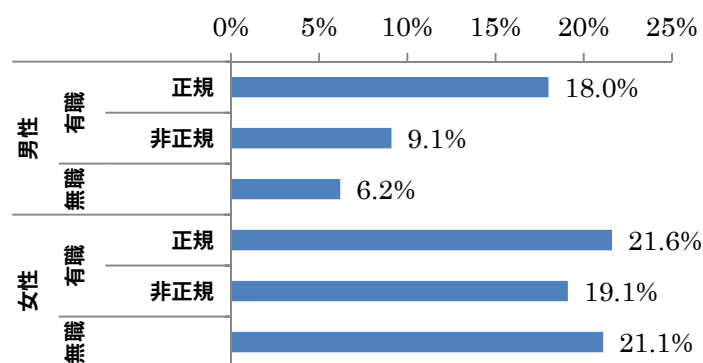


図4 雇用状況別にみる過去4年間に独身者が結婚した割合

出所 厚生労働省『第5回21世紀成年者縦断調査』⁽⁵⁾

ただし正規雇用であるとしても、仕事に対する満足度はそれほど高いわけではない。仕事の満足感を正規雇用と非正規雇用者との間で比較しても、それほど大きな違いがない(佐藤 2008)。厚生労働省の『就業構造基本調査』によると、2007年の正規の職員・従業員のうち、週間就業時間が60時間を超える割合は、男性で18.8%、女性で8.0%である。図5は、年齢段階別に週間就業時間が60時間を超える正規雇用者の割合を示している。JGSS ライフコース調査の調査対象者が含まれている、男性の25歳～44歳では、週間就業時間が60時間を超える割合が、2割を超えている。長時間労働をする人々は、睡眠時間を削ってしまい疲労感を解消できないだけでなく、抑うつ傾向も高まるという指摘もある(小倉・藤本 2005)。長時間労働が多い年齢段階は子育て期にあたる。『平成20年版青少年白書』によると、その年齢段階の父親の23.3%が平日の親子の接触時間が「ほとんどない」としており、6年前の調査より9.2%増加している。正規雇用者のこのような働き方が、今日の家庭環境に影響していることは明らかであろう。

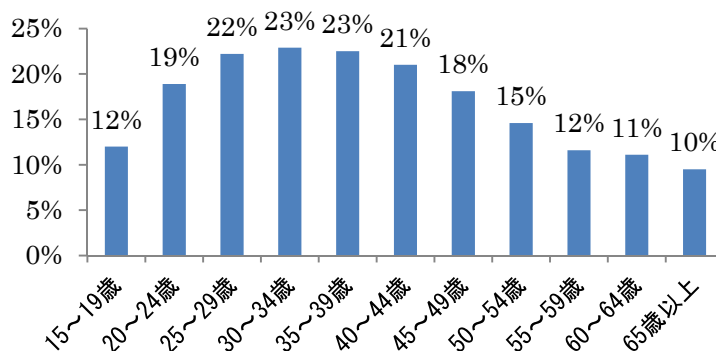


図5 年齢階級別、週間就業時間が60時間を超える正規雇用者の割合

出所 厚生労働省『平成19年就業構造基本調査』⁽⁶⁾

以上のように、マクロな統計データから、働き方やライフスタイルの変化を知ることができる。しかしこのようなデータは、一時点の「スナップショット」である。働き方やライフスタイルの多様化がどのように進行してきたのかを理解するには、「現在」が形成されるプロセスを明らかにするライフヒストリーをとらえることが可能なデータが望まれる（岩井 2006）。

今回の JGSS ライフコース調査では、中学校卒業後から現在までの人生における出来事を多岐にわたる領域で収集する。この調査は、出来事の発生した年月に関する個人ごとの情報から、詳細なライフヒストリーを再構成できるようにデザインされている。さらに調査対象者の短い年齢幅のなかに、学校を卒業した時に比較的雇用が安定していた年齢層と雇用機会が劣悪化した年齢層が含まれている。なお、比較的雇用が安定していた年齢層には、「アラフォー」と言われる男女雇用機会均等法の下で仕事をし、キャリアを積んだ 40 歳前後の女性も含まれている。この世代では、結婚と仕事についての選択肢が広がったと言われているが、自らのライフコースにおける結婚・出産・仕事について再考する人生の岐路に立つ時期を迎えている。出生コーホート間でライフヒストリーを比較することによって、いかなるプロセスを経て働き方やライフスタイルに変化が生じてきたのかを解明できると考えられる。

3. ライフコース調査とは

ライフコースは、人々が辿る人生の道筋を指す。ライフコース調査では、人々の人生の道筋で生じるさまざまな出来事（就業、転職、退職、失業、結婚、出産、離婚など）に着目して、出来事の発生と変化だけではなく、その背景となるような情報もできる限り収集する。人生のさまざまな領域における出来事がいつ、何がきっかけで起こり、後に何を引き起こすのかを検討することが目指されている。例えば「子どもの誕生」という人生の出来事ひとつをとっても、成人男女がどの年齢で第一子をもつのか、第二子以降は何歳の間隔で生むのか、どのような人生パターンを歩んできた人が子どもを多くもつのか、出産後の家族関係はどうなるのか、といったような多彩な研究テーマが考えられる。さらに、マクロな社会状況が、人生の道筋にどのように影響を与えているのかという点もライフコース研究にとって大きな研究関心である。「子どもの誕生」に関しては、少子化政策が、未婚の時期に行政によって施行された場合と、結婚後に施行された場合とを比べると、出産行動に対する影響が異なると予想できるだろう。

計量的なライフコース研究を目的として設計された調査は、海外で既に多く存在しており、そのデータは広く公開されている。Karl Ulrich Mayer を中心にドイツのマックス・プランク人間発達研究所が行ってきた、German Life History Study (GLHS) が代表的な調査研究である。GLHS では、1981～2005 年にかけて、13 の異なる出生コーホートを対象に、9 回の調査（2 つのパネル調査を含む）を実施し、生まれてから調査時点までの回顧的なライフヒストリー・データを収集している。この研究では現在までに、11,441 人から、職歴、婚姻歴、居住歴などのデータが集められており、多くの研究論文が発表されている（Mayer 2007）。一方、アメリカでは、ミシガン大学社会調査研究所が、1968 年より Panel Study of Income Dynamics (PSID) を実施してきた。この調査はこれまでに、7,000 世帯、65,000 人以上の経歴を追跡しており、最長で 38 年間にわたる、所得、雇用、家族構成、居住地などの情報が同一サンプルから収集されている。

日本においても、（財）家計経済研究所が『消費生活に関するパネル調査』を実施している。この調査は、1993 年より、24～35 歳の 1,500 人の女性（1997 年および 2003 年にそれぞれ 500 人、836 人を追加）の消費行動、就業、結婚、生活時間などを毎年、追跡調査している。また日本家族社会学会が行った全国調査『戦後日本の家族の歩み』（NFRJ-S01）では、就職、離職、結婚、育児、介護のような家庭環境の変化を、32～81 歳の女性を対象に、GLHS のような回顧的なデータを収集している。このように、計量的なライフヒストリー・データの蓄積は国内外で着々と進んでいる。

長期にわたるライフヒストリー・データの蓄積が進むと、成人（高齢者を含む）となってからの特性について、その決定要因を人生の早い段階で生じた出来事に求める研究志向が高まるかもしれない。しかし最近の研究では、多くの研究者がこうした動きに警鐘を鳴らしている（Furstenberg 2007; Laub &

Sampson 2003; Schoon 2006)。例えば、Laub and Sampson は、1940 年代にアメリカ・マサチューセッツ州の更生施設にいた 500 人の少年犯罪者を、32 歳時と 70 歳時に追跡した調査において、スタート時点では同じ境遇の彼らが、各個人の社会文化的文脈（結婚、就職、交友関係、社会制度など）によって、異なるライフコースを辿ることを明らかにしている。この研究は、人生の早い段階に方向付けられた人生の道筋であっても、成人してからのさまざまな要因によっても方向転換が可能であること示している。

佐藤・吉田（2007）の研究は、JGSS 累積データ 2000-2003 および SSM 調査（1965～1995 年）を用いて父親所得を推定し、本人の現在の所得との世代間移動を検証している。それによれば、父親所得が本人所得を直接に規定するような関係は見られず、父親所得の高さが本人の高学歴と関連し、高学歴によって威信の高い職を得て、本人所得も高いというような連鎖の関係がある。ライフコース調査を設計するにあたっては、ただ単に子どもの頃の状況に関する情報を得るだけでなく、ライフコースのターニング・ポイントになるような、多元的な領域にわたる要因を収集する必要があるだろう。

4. 逐次法と遡及法

ライフコース調査には大きく分けて 2 つの調査法がある。ひとつは、同一人物を異なる時点で繰り返し調査する逐次法と呼ばれる方法であり、もうひとつは、過去の出来事を回顧的に調査する遡及法と呼ばれる方法である。逐次法の利点は、遡及法では得ることのできない過去の主観的経験や意識の詳細なデータを、各調査時点で収集できることである。しかしその一方で、ライフヒストリー・データを作り上げるために、10 年、20 年、またはそれ以上の継続調査が必要となり、時間と費用のコストが膨大となる。また、対象者を追跡し損ねる、追跡調査であるゆえに調査の参加拒否を招く、追跡を繰り返すことが回答者の意識や行動に影響を及ぼすといった、サンプルの代表性を損ねるような問題が引き起こされる危険性がある。

一方、遡及法の最大の利点は、短期間のうちに低コストで長期間にわたるライフヒストリー・データを収集できることである。最大の課題は、いかにデータの信頼性を確保するかにある。人間の記憶は不完全であるため、調査対象者が過去の出来事を失念したり、起こった時期を誤って報告したりする可能性は高い。さらに自己保身のために、無意識のうち（時に意図的）に嫌な出来事を記憶から消却したり、出来事の意味合いを変えたりしてしまう可能性も拭えない。

人間の記憶の正確さに関する研究として、前述の German Life History Study (GLHS) を用いた研究がある（Reimer 2004）。GLHS は、1981 年から旧西ドイツで実施されてきたが、ベルリンの壁崩壊後の 1991～1992 年にかけて、旧東ドイツにおいても同様の調査が遡及法を用いて行われた（第 1 回調査）。その後、1996～1997 年には同一サンプルの職歴が再度調査されたが、その調査では、職歴が第 1 回調査時からではなく、ベルリンの壁が崩壊した 1989 年に遡って聞き取られた。2 つの調査によって調べられた職歴は、3 年間の重なりがあるため、同時期のデータについて、その整合性を検討することが可能である。その研究の結果によれば、有職・無職・非求職（学生、主婦、退職など）の 3 つの就労状況の変化について、その回数の報告は回答者の 7 割で一致していた。その 3 つの就労状況の変化の順序に関しては、回答者の 56% で完全に一致していた。就労状況の変化が起こった年月に関する報告のズレは、7 割以上のケースで 2 ヶ月以内にとどまっていた。この数値を高いと見るか低いと見るかは意見の分かれるところであろう。

第 2 回調査では、就労状況の変化について第 1 回調査より簡略化して回答する傾向があったが、無職状態と回答したケースのみは、第 1 回調査より第 2 回調査の数の方が多かった。Reimer はこの現象を、社会主義国であった旧東ドイツでは、無職は存在し得ないものであり、不名誉と考えられていたため第 1 回調査では回答が少なかったのではないかと推察している。ベルリンの壁崩壊直後には、無職と答えなかった回答者が、社会状況の変化を経て、無職に対する抵抗感が和らいだ結果であろう。この場合、より遠い過去の状態を尋ねたデータの方が、妥当性が高いことになる。また、遡及法で収集した父親の職業と逐次法で収集した自己記述の現職について、それぞれに対応するセンサスのデー

第二に、より正確なデータを収集できるような工夫がなされている。過去のライフコース調査設計の経験から、ライフヒストリーを尋ねる前に、基準となる年（中学卒業年）を確定しておく必要性が指摘されている。回答者に中学卒業年を尋ねると、前後1年がずれるような誤答が生じる可能性がある。基準年がずれてしまうと、その後のライフヒストリーの年月すべての信頼性が揺らいでしまう。JGSS ライフコース調査では、ライフヒストリーを月単位で収集するため、1年の齟齬が分析上では12単位のズレとなり、分析結果に多大な影響を与える恐れがある。調査では、中学卒業年の選択肢に生年月日を併記することにより、基準年のエラーを最小限に食い止めるようにしている。また、調査員が面接を進めている過程でも、回答をチェックできる工夫がなされている。例えば、中学卒業後に通ったことのある学校について、回答者に複数選択させた直後に、それぞれの学校の詳細を尋ね、また、同居家族人数を尋ねた直後に、その同居家族の続柄を回答者に複数選択させている。

複雑な職歴の移行をできるかぎり、ありのままにとらえるために、質問文で勤め先の移行を定義し、勤め先の移行のプロセスにおいて前職と次職の時間的重なりがある場合も認めた。勤め先において、企業合併や市町村合併が生じた場合、回答者が判断を迷う可能性がある。一方、派遣社員の場合は、長期間同じ派遣会社に登録していたとしても、その間に複数にわたり異なる事業を営む職場に派遣されるケースが多い。このような事例を勤め先の移行であると定義して、回答の標準化を試みた。また不安定な就業形態をとる非正規雇用者の増加を考えると、1つの従業員から次の従業員に雇用の移行が時間的に連続していると仮定する方が、むしろ不自然であろう。今回の調査設計では、前職に勤めつつ、次職に勤め始めるケースをそのままとらえることが重要だと判断した。

第三に、ライフコースのターニング・ポイントと考えられるような、多様な領域における情報を収集することにした。人生の早い段階の状況が、人々のライフコースを一様に決定づけるのではなく、それぞれの人生段階で人生の方向を変化させるような要因があると予想される（Furstenberg 2007; Laub & Sampson 2003; Schoon 2006）。過去のライフコース研究において頻繁に収集されてきた、結婚、子どもの誕生、実親・義親との同居歴などはもちろんだが、基準年である15歳時の状況に加えて、高校や大学在学時の学業や課外活動への取り組み方、学生時代のアルバイト経験、職業訓練機会の有無、資格取得の有無、初職への入職経路などの設問が取り入れられている。

第四に、回答者・調査員双方の負担をできる限り軽減できるよう考慮した。詳細で正確なライフヒストリー・データを構築しようとするれば、逆に、そのための手続きによって、煩わしさや不信感を助長してしまう恐れがある。良質なデータを得るには、正確さとシンプルさのバランスを保つことが不可欠となる。今回のJGSS ライフコース調査の目的との関係から、同居家族情報や両親・配偶者の学歴、職歴などに関する設問は、必要最小限にとどめた。

以上のようにして、JGSS ライフコース調査のプリテスト用の調査票が、28～42歳を対象として、データの正確さと設問と回答のシンプルさに細心の注意を払いつつ、作成された。

6. プリテストの結果

JGSS ライフコース調査のプリテストは、2008年10月11日に調査会社にモニターとして登録している、関西在住の男女30名を対象に実施した。対象者は、28～32歳、33～37歳、38～42歳の3つの年齢層のそれぞれについて、男女5名ずつが選ばれた。このプリテストは、プリテスト用に作成された調査票の有効性を確認することが目的であった。プリテストの調査対象者の基本属性は表1に示すとおりである。

調査票については、JGSSの従来の調査と同様に、面接調査票と留置調査票を併用する。調査対象者は、性別・年齢に関係なく、7～8名からなる4つのグループに分けられ、時間をずらして調査会社に来てもらった。プリテストは、実査に即して面接調査から始め、面接調査終了後、留置票を調査協力者に手渡し、自記式調査を行った。最後に事前に用意した質問リストを用いて、調査全般に関わるヒアリングを行った。面接調査およびヒアリングはJGSS ライフコース研究会のメンバーが実施した。

表 1 調査協力者の基本属性

	n	%
女性	15	50.0
既婚	20	66.7
子どもあり	17	56.7
学歴（高卒以上）	15	50.0
収入をとまなう仕事に就いたことがある	30	100.0
先週、収入をとまなう仕事をした	27	90.0
非正規雇用者（臨時雇用・派遣社員）	10	33.3
副業あり	8	29.6
転職経験あり	26	86.7

プリテストの平均所要時間は面接票が 37 分、留置票が 19 分であった。面接票ならびに留置票は、質問文や選択肢に修正すべきところがあり、質問の順序変更など細かな改良すべき点が見つかったが、総合的にみると、調査票の実用性がかなり高いことがわかった。とくに「年齢シート」が有用であることが確認された。今後のライフヒストリー・データの収集においても大いに活用すべきであろう。Conrad and Schober（2000）の研究では、機械的に質問を続ける方法に比べ、調査員と回答者が臨機応変に協力してライフヒストリーを辿るような手続きが有効である点が指摘されている。「年齢シート」は、調査員と回答者が協力して過去の記憶を呼び起こす作業を促すようなツールといえる。面接では、「年齢シート」上にデータを詳細に記録するのではなく、メモ程度を残すことにした。そのため、ライフイベントのタイミングが簡略化されて示されて、面接中に、それを一目で読み取ることができた。さらに、それが異なる領域のライフイベントの確認に役立ち、データの精度の向上につながった。例えば、配偶者の両親と同居し始めた年月の記憶が曖昧な回答者にとって、その近辺の他領域のライフイベントの情報（雇用状況、結婚状況、子どもの有無など）が伝えられると、記憶が呼び起こされる。また、基準年となる中学卒業年を最初に生年月日から確定したために、その後のライフヒストリーを現在まで辿る際に、エラーの発生が抑制された。プリテストを始める前は、月単位のライフヒストリーを長期間に遡って尋ねため、いくつかのイベントの年月を失念しているケースが多いのではと憂慮していたが、概ね瞬時に回答を得ることができた。

JGSS ライフコース調査では、設問を工夫して、雇用環境の流動化を実情に即してとらえようとしているが、調査票の記入直後に行われたヒアリングによると、若年層の働き方が、想像以上に複雑化している可能性が示唆された。表 2 に働き方に関するプリテストの結果をまとめている。過去にフリーターのような働き方をしたことがあるという人が 16 ケースあり、その期間は、1 か月～3 年半であった。これらの回答者の多くは、転職する際に、前の仕事から次の仕事までの間にパートやアルバイトをはさむと、この期間を「フリーターのような働き方をしていた」と認識しているようであった。このうちの 5 ケースでは、こうした職の不安定な時期が数か月と短く、複数の仕事を繰り返していたため、面接で職歴を尋ねた際には、これらの職は回答には含まれていなかった。現在、フリーターのような働き方をしていると回答した人は 2 ケースであり、1 人は 6 か月前から、もう 1 人は 15 年前からそのような働き方を始めていた。

フリーターの定義は定まっておらず、調査によって異なる。厚生労働省が 2002 年以降に用いている定義では、学生・主婦を除く 15～34 歳のうち、現在、パート・アルバイトとして就業している者、もしくは、現在無業だが、パート・アルバイトの仕事を希望する者としている。内閣府の場合、より広義な定義が用いられており、派遣労働者を含む非正規雇用者や、働く意思のある無職の人全体がフリーターに含まれている。プリテストでは、主婦であってもフリーターのような働き方をしていると答えるケースもあった。本調査では、フリーターの定義の確立を目的とはしておらず、調査対象者の主観的な判断に委ねることとした。

過去に複数の仕事を持っていた人は7ケースあり、1ケースを除いて、転職を2回以上経験した後、短期間のパートやアルバイトを主な仕事と並行して行っていた。また、7ケースすべてにおいて、この複数の仕事があった時期の主な仕事も非正規雇用と答えていた。非正規雇用者は、経済的に困難であった時期に、仕事を掛け持ちしている可能性が高い。現在複数の仕事を持っている人は8ケースあった。このうち7ケースは正規雇用者であり、3年以上の長期間にわたり、家業の手伝いや、趣味、小遣い稼ぎなどを理由として副業を持っていた。また、現在の収入をとまなう仕事の数を4つと答えた1ケース以外は、副業を持っていたとしても1つのみであった。複数の副業を持っていたとしても、回答者自身が優先順位をつけて答えていたので、現在の副業については、主なもの1つを詳しく尋ねるだけでよいだろう。

職歴の詳細を辿るというライフコース調査にとって、今までの勤め先総数や無職になった回数などの概数は、調査票を作成する上で非常に重要な情報となる。今回の調査対象者の中で、初職と現職が一致しているものは、4ケースのみであった。いずれも、15年以上の長期にわたる正規雇用者であった。転職回数は、一般に正規雇用より非正規雇用の方が多く、男性より女性の方が多い。30名中の7割が、複数回の転職を経験していた。ただし、大半の転職回数は4回以下であった。この結果を踏まえ、プリテスト同様、本調査においても、7番目以降の勤め先の情報から補助用紙を用いるようにした。

過去に無職期間があった回数は、男性より女性に多い。これは、女性の場合、結婚や出産を機に長期間無職となる傾向があるためである。およそ、3分の2のケースで、過去に1度でも無職期間があったと答えているが、無職となる回数は最大で3回と概ね少ない。

最後に、派遣会社に登録した経験があるかどうかを尋ねた。3ケースは登録したのみで、労働の実態は無かったが、調査対象者のうち半数は派遣登録の経験があると答えている。若年層の間で派遣登録が日常的に行われているようである。また、派遣登録する人は、勤め先の変化数が多くなっており、雇用状況の不安定さが垣間見える。以下の節では、プリテストで得られたデータを基に、その特徴を表すような架空のケースを再構成して紹介する。

表2 プリテストの結果

過去にフリーターのような働き方をしたことがある		16 ケース (53.3%)
フリーターのような働き方をしていた期間		1 か月間～3.5 年間
現在フリーターのような働き方をしている		2 ケース (6.7%)
フリーターのような働き方を始めた時期		6 か月～15 年前
過去に複数の仕事を持っていた		7 ケース (23.3%)
副業を持っていた期間		6 ヶ月間～6.5 年間
現在の収入をとまなう仕事数	なし	3 ケース (10.0%)
	1 つ	19 ケース (63.3%)
	2 つ	7 ケース (23.3%)
	4 つ	1 ケース (3.3%)
現在の副業を始めた時期		6 か月～14 年前
主な勤め先が変わった回数	なし	4 ケース (13.3%)
	1 回	5 ケース (16.7%)
	2 回	5 ケース (16.7%)
	3 回	10 ケース (33.3%)
	4 回	2 ケース (6.7%)
	6 回	3 ケース (10.0%)
	7 回	1 ケース (3.3%)
過去に無職期間があった回数	なし	11 ケース (36.7%)
	1 回	13 ケース (43.3%)
	2 回	3 ケース (10.0%)
	3 回	3 ケース (10.0%)
派遣会社に登録したことがある		15 ケース (50.0%)
派遣会社に登録していた期間		1 か月未満～11 年間

7. ライフヒストリーの再構成

7.1 ケース1 (Aさんのライフヒストリー)

現在 28 歳で両親と同居する未婚の男性 A さんは、高校卒業後 1 年間浪人し、文系の大学に入学した。大学入学直後から居酒屋でアルバイトを始め、周囲の勧めもあり、大学 2 年生時に中退し、バイト先の居酒屋の正社員となった。もともと服飾に興味を持っていた彼は、3 年後その仕事を辞めて、服飾関係の専門学校に 2 年間通った。その後、半年前までアパレル関係の会社に正社員として就職していたが、現在は退職し、友人と共同で起業の準備をしている。

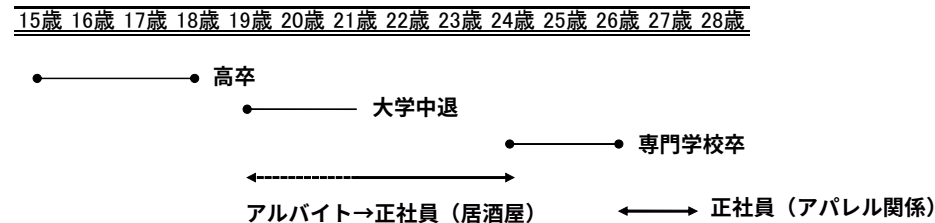


図7 Aさんのライフヒストリー

このケースで問題となったのは初職の定義である。プリテストの面接調査では、「学生時代のアルバイトを除いて、これまでに収入をとまなう仕事を経験したことがあるかどうか」を確認し、次に初職を始めた時期を尋ねていた。Aさんは面接調査では、大学中退後に居酒屋の正社員となった時点如初職の始まりと答えていたが、調査後のヒアリングの結果、実は、大学在籍時のアルバイト先で正社員になっていたことが判明した。Aさん自身もどちらを初職とするか迷ったが、大学時代のアルバイトは職歴に含めなかった。しかしAさんの場合のライフヒストリー・データは、大学時代のアルバイトが初職で、2年後に従業上の地位に変化があったとする方が現実的に即している。これに似たケースとして、定時制高校に在学中は契約社員であったが、定時制高校卒業後に同じ職場で正社員となっていたケースがあった。このように、「学校」→「初職」というような画一した順序は存在せず、「学校」と「初職」が同時期に重なるケースや、Aさんのように学業に戻るケースを把握することが、現在若年層で起きている職業移動の複雑化の実像をとらえるために重要であろう。

7.2 ケース2 (Bさんのライフヒストリー)

現在 37 歳で配偶者と 3 人の子どもと暮らす女性 B さんは、商業系の高校卒業後、保険会社の一般事務職員として就職し、一人暮らしを始めた。6 年後仕事を辞めて、派遣社員として働き始めるまでの 1 年間、コンビニと飲食店でアルバイトをしていた。家電販売店への派遣は 4 ヶ月間のみで、1 ヶ月後、信販会社へ 5 ヶ月間派遣された。その後、建設会社で 2 年間、契約社員として働いた。派遣社員として働き始めた最初の 1 年間は不安だったため、コンビニのアルバイトを続けた。結婚を機に退職し、その後は現在まで主婦である。

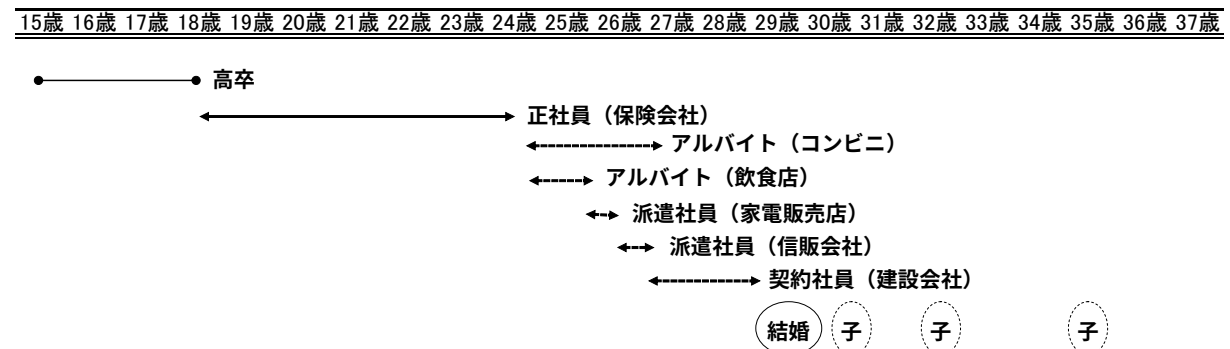


図8 Bさんのライフヒストリー

このケースを見ると、仕事の移動を時系列に一直線で表すことが不可能であることが再認識されるであろう。流動化する雇用状況の中、正規雇用間の移動のように前職を退職した後、次職が始まるわけではない。前職を維持しつつ、次職を始めた、複数の仕事を掛け持ちしたりする場合が非正規雇用者の間では珍しくない。Bさんは一般事務の仕事を退職後、昼間はコンビニで、週3日の夜は飲食店でアルバイトをして生計を立てていた。その後3つの異なる職場に勤めていた間も、職の不安定さを考慮し、コンビニのアルバイトを続けていた。派遣の仕事が無い時期はコンビニのアルバイトを増やして対応した。主な勤め先の変化を、例えば「6ヶ月以上続いた仕事」と限定することも考えられるが、Bさんのように、短期間で全く異なる仕事内容を経験している場合には、そのままとらえる方がよいと判断し、働いていた期間を限定しないこととした。期間を限定しないことによって、より多くの職歴が発生すると予測されるが、職業移動を数多く経験している人は、履歴書作成などを繰り返しているためか、逆に、年月などの記憶が鮮明である傾向があった。

7.3 ケース3（Cさんのライフヒストリー）

現在 34 歳で配偶者と 2 人暮らしの女性Cさんは、看護系の短期大学に在学中から芸能関係の事務所に所属していた。短大卒業後、芸能関係の仕事のみでは収入が少ないため、福祉関係のアルバイトを始めた。5年後すべての仕事を辞めて、実家に帰り家業の手伝いをしつつ、その後の2年間は複数のアルバイトを転々としていた。時を同じくして派遣会社に登録し、短期の仕事を不定期にこなした。結婚後も派遣の仕事を不定期に続けている。

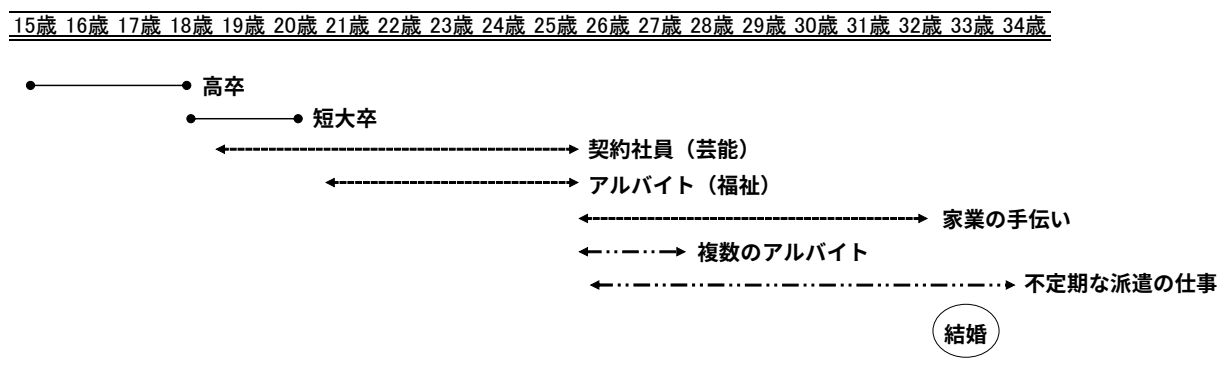


図9 Cさんのライフヒストリー

このケースでは、主な仕事は何であるか決めることができない。Cさんにとっての初職は芸能関係の仕事であり、実家に戻るまでは、それが主な仕事と答えていた。ヒアリングの結果、芸能関係の仕事は週2日程度しかなく、実はその間に福祉関係のアルバイトをしていたことがわかった。拘束時間と収入はアルバイトの方が上であったが、自己のアイデンティティとしては、あくまで芸能活動が主な仕事であった。主な仕事を選択する理由は、回答者によりさまざまで、昼間の仕事や、収入の多い仕事、費やす時間の長い仕事などであった。主な仕事を選択を回答者の主観に委ねること自体は、さほど問題ではないが、その期間の副業の有無をとらえる必要性が明らかになった。また、Cさんの場合、芸能関係の仕事を辞めてからは、主な仕事が決められなかったため、無職と答えていた。しかし、実際は、20程度の仕事の経験があった。この期間の就労状態を無職とするのは明らかに誤りである。ひとつひとつの仕事を辿ることは、調査員・回答者ともに負担の増加につながってしまうため不可能であるが、主な仕事を決められない時期と無職であった時期を確認するプロセスの必要性は明らかである。

8. プリテスト後の改良点

プリテストで得られた知見をもとに、本調査の面接票では、職歴の尋ね方に改良を加えた。第一に、ケース1のAさんのように、学校在籍中に初職が始まる場合を考慮し、初職を始めた時期を尋ねる質

問の直後に、「学生時代のアルバイト先にそのまま就職した場合や、卒業後もそのままアルバイトを続けた場合、定時制高校に通いながら仕事をしている場合は、学校を終える前についた仕事でも、最初の勤め先とみなし、その旨を余白に記入しておく。」と注意書きを加えた。これにより、回答者の判断に頼ることなく、初職の定義が標準化されると期待できる。

第二に、ケース2のBさんやケース3のCさんのように、主な仕事とは別に、同時期に副業をもっていた場合を考慮し、主な勤め先で働いていた期間に並行して勤めていた副業の有無を尋ねるよう改良した。調査員・回答者の負担を鑑み、副業の開始年月・終了年月は問わず、その時期にしていた副業すべてについての従業上の地位を尋ねることにとどめた。

第三に、ケース3のCさんのように、短期間の派遣の仕事やアルバイトを、複数同時に行い、主な仕事が決められない期間がある場合を考慮した面接票の修正を行った。面接票では、主な勤め先の移り変わりを尋ねた直後に、短期間の仕事を繰り返していた時期とその従業上の地位および仕事内容を尋ねる設問を新たに設けた。これまでの職歴を辿る調査では、このような職が不安定であった時期が無職期間とされていた可能性もあり、大きな改良点と言えるであろう。

第四に、無職期間については、学校卒業後、現在までの期間において、回答者が職業に言及していない空白期間を自動的に無職期間とするのではなく、月単位で確認する設問を加えることにした。また、無職期間の定義を明確にするため、「勤め先をやめた翌月（または最後の学校を終えた翌月）から、次の勤め先につく前月までを無職期間と見なす。」と注意書きを加えた。これにより、3月に退職した場合に、回答者によって、無職期間の始まりが3月となったり、4月となったりするような矛盾を回避できるであろう。年齢シートを参考にしながら、無職期間を確定する作業は、より正確な職歴データを作成するために大いに役立つと考えられる。

9. まとめ

JGSS-2009 ライフコース調査では、より正確なライフヒストリー・データを構築するために、本稿で記述したように、調査設計の段階からさまざまな工夫を組み込んだ。プリテストを経て、質問文・選択肢に細かな修正が加わったが、調査設計自体には大きな問題はなく、総じて調査票の高い実用性が確認された。初職の定義や、副業の有無、主な仕事が決められない期間の扱い、無職期間の厳密な情報の収集などに改良を加えて、本調査では実態に即した、より良質なライフヒストリー・データが得られるであろうと期待する。調査対象者が28歳～42歳と若いので、回収率の低さが懸念されるが、本調査では、調査票だけでなく、依頼状の文面に細心の注意を払っている。また、JGSSの従来の調査に比べて対象者の負担が大きいため、謝礼を増やすことにした。

近年、若年層から高齢層まで、働き方やライフスタイルの多様化が進んでいる。その主な要因の一つに、雇用環境の流動化が挙げられる。JGSS ライフコース調査のプリテストが終了した2008年11月頃から、アメリカのサブプライム問題に端を発した世界経済の不況が表面化し、「未曾有の危機」と称されるほどの事態となっている。年末年始にかけては、「派遣切り」「期間工切り」と呼ばれる非正規雇用者の解雇が相次ぎ、正規雇用者に対しても「賃金カット」や「ワークシェアリング」などでそれぞれの企業が窮境に対処しようとする動きが連日のように報道されている。このような状況の下で実施されているJGSS ライフコース調査は、若年層の働き方や考え方の実態を正確に把握し、今後、さらに進むと予想されるライフスタイルの多様化に対して、社会全体がどのように対応していくかを考察するためにも大きな意義を持っている。本調査によって見出される知見が、より多くの人に活用されることを期待している。

[注]

- (1) JGSS-2009 ライフコース調査研究会は、以下のメンバーから構成されている：岩井八郎（京都大学）、平尾桂子（上智大学）、山内乾史（神戸大学）、轟亮（金沢大学）、阿形健司（同志社大学）、中澤渉（東洋大学）、小林盾（成蹊大学）、岡田丈祐（京都大学大学院）、白川俊之（同志社大学大学院）、岩井紀子（大阪商業大学）、保田時男（大阪商業大学）、佐々木尚之（大阪商業大学 JGSS 研究センター）。なお、2009 年 10 月 11 日に実施したプリテストは、岩井八郎、平尾、山内、阿形、小林、岡田、白川、岩井紀子、保田、佐々木の 10 名で実施した。
- (2) 総務省統計局『労働力調査』長期時系列データより作成。
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm#det>（2009 年 2 月 17 日）
- (3) 総務省統計局『労働力調査』長期時系列データより作成。
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm#det>（2009 年 2 月 17 日）役員を除く雇用者数のうち、パート・アルバイト、派遣社員、契約・嘱託社員などの非正規雇用者の割合である。平成 13 年以前は 2 月に調査されたデータ、平成 14 年以降は 1 月～3 月の平均のデータを用いた。なお、平成 14 年を境に、調査方法が変更されているため、時系列比較には慎重を要する。
- (4) 総務省統計局『労働力調査』長期時系列データより作成。
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm#det>（2009 年 2 月 17 日）
- (5) 厚生労働省『第 5 回 2 1 世紀成年者縦断調査』より作成。
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/judan/seinen08/index.html>（2009 年 2 月 17 日）
- (6) 厚生労働省『平成 19 年就業構造基本調査』より作成。
<http://www.stat.go.jp/data/shugyou/2007/gaiyou.htm>（2009 年 2 月 17 日）

[参考文献]

- Conrad, Frederick G., & Schober, Michael F., 2000, Clarifying Question Meaning in a Household Telephone Survey, *Public Opinion Quarterly*. 64: 1-28.
- Furstenberg, Frank F., 2007. *Destinies of the Disadvantaged: The Politics of Teen Childbearing*. NY: Russell Sage.
- Giele, Janet Z., and Elder, Glen H., 1998, *Methods of Life Course Research: Qualitative and Quantitative Approaches*. Thousands Oaks, London, New Delhi: Sage.
- 岩井八郎, 2006, 「ライフコース研究の 20 年と計量社会学の課題」『理論と方法』22: 13-32.
- 小倉一哉・藤本隆史, 2005, 「日本の長時間労働・不払い労働時間の実態と実証分析」『労働政策研究報告書』第 22 号.
- Laub, John H., & Sampson, Robert J., 2003, *Shared Beginnings, Divergent Lives: Delinquent Boys to Age 70*. Cambridge: Harvard University Press.
- Mayer, Karl Ulrich, 2007, Retrospective longitudinal research: The German Life History Study. In Scott Menard (Ed.), *Handbook of Longitudinal Research: Design, Measurement, Analysis*. (pp. 85-106). San Diego: Elsevier.
- Reimer, Maike, 2004, *Collecting Event History Data About Work Careers Retrospectively: Mistakes that Occur and Ways to Prevent Them*. Berlin: Max Planck Institute for Human Development.
- 佐藤香, 2008, 「働きかたの多様性と社会的格差」谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動 本版総合的社会調査 JGSS による分析』東京大学出版会, pp.179-191.
- 佐藤嘉倫・吉田崇, 2007, 「貧困の世代間連鎖の実証研究—所得移動の観点から—」『日本労働研究雑誌』563: 75-83.
- Schoon, Ingrid, 2006, *Risk and Resilience: Adaptations in Changing Times*. Cambridge: Cambridge University Press.



文部科学大臣認可
日本版総合的社会調査共同研究拠点

〔プリテスト面接調査票〕

「第7回生活と意識についての国際比較調査」

特別調査「働き方と暮らしについての調査」

	訪問日	訪問時間	話をした人
1	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在
2	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在
3	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在
4	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在
5	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在
6	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在
7	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在
8	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在
9	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在
10	月 日 ()	午前・午後 時 分頃	本人 家族のみ 不在

対象者本人に会えるまでの訪問を全て記録する。
10回を越えた訪問の記録は不要。
接触ができるまで、必ず4日以上訪問する。
(同日に2度訪問しても1日と数えるが、同日の訪問を禁止するわけではない)

回収状況
面接票
1 面接完了 (月 日)
2 面接不能
留置票
1 回収完了 (月 日)
2 回収不能
一方で調査不能の場合、次のページを忘れず記入する。
留置票の受取予定日時

はじめに、あなたのお仕事について、おうかがいします。

問 1-1【回答票 1】先週、あなたは収入をともなう仕事をしましたか、または仕事をするようになっていましたか。この中からあげてください。

- | | | |
|-------------------|---|----------------------|
| 1
(ア)
仕事をした | 2
(イ)
仕事をもっているが、
病気、休暇などで先週は仕事を休んだ | 3
(ウ)
仕事をしていない |
|-------------------|---|----------------------|

問 1-2【回答票 2】先週のあなたはこの中のどれにあたりますか。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 (ア) 失業中 | 4 (エ) 心身の事情で働けない |
| 2 (イ) 学 生 | 5 (オ) その他 (具体的に) |
| 3 (ウ) 主に家事をしている | 6 わからない |

問 1-3 あなたは現在、仕事を探していますか。

- 1 はい 2 いいえ

6 ページ 問 15 へ

問 2-1 あなたは、副業などを含めて、仕事を合計いくつお持ちですか。

合計で 個

問 2-2 あなたは、先週、残業も含めて仕事を合計何時間しましたか。2つ以上仕事をお持ちの場合は、主な仕事1つとそれ以外の仕事にわけて、それぞれの時間を教えてください。

サービス残業も含め、実際に働いた時間数を答えてもらう。

副業を持っていない場合は、副業の時間数に0 (ゼロ) と記入する。

先週、病気や休暇などで仕事をしなかった場合は、ふだんの状態について答えてもらう。

主な仕事を週合計で 時間 副業を週合計で 時間

お仕事について少し詳しくおかがいします。2つ以上仕事をお持ちの方は、主な仕事1つについてお答えください。

問3-1【回答票3】あなたの仕事は、大きく分けて、この中のどれにあたりますか。

1 (ア)「経営者」と5 (オ)「自営業主」のどちらを選択するかは、回答者自身の判断に任せます。
公務員の場合でも、これ以降の質問に回答してもらおう。

- | | | | | | | |
|------------------------|----------------------------|--|------------------|---------------------------|-------------------|------------|
| 1
(ア)
経営者・
役員 | 2
(イ)
常時雇用の
一般従業者 | 3
(ウ)
臨時雇用
(パート・アルバイト・
契約職社員・内職) | 4
(エ)
派遣社員 | 5
(オ)
自営業主・
自由業者 | 6
(カ)
家族従業者 | 7
わからない |
|------------------------|----------------------------|--|------------------|---------------------------|-------------------|------------|

問3-2【回答票4】あなたの役職は、この中のどれにあたりますか。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1 (ア) 役職なし | 5 (オ) 部長 (部長相当) |
| 2 (イ) 職長・班長・組長など | 6 (カ) その他の役職 (具体的に_____) |
| 3 (ウ) 係長 (係長相当) | 7 わからない |
| 4 (エ) 課長 (課長相当) | |

問4【回答票5】あなたのお住まいから職場までの通勤時間は、片道平均どれくらいですか。

- | | | |
|-----------------|---------------------------|-----------------------------|
| 1
(ア)
およそ | 2
(イ)
住まいと
職場は同じ | 3
(ウ)
日によって
行き先が違う |
|-----------------|---------------------------|-----------------------------|

問5【回答票6】あなたが働く職場は、この中のどれにあたりますか。

省庁や自治体から給与を得ている場合 (公立学校の教師、消防署員など) は、すべて官公庁。公社は官公庁ではない。

- | |
|----------------------------|
| 1 (ア) 官 公 庁 |
| 2 (イ) 単独事業所 (他に事業所はない) |
| 3 (ウ) 支店・支所 (本社・本店は他にある) |
| 4 (エ) 本社・本店 (他に支店・支所などがある) |
| 5 わからない |

問6 あなたが働いているお勤め先はどのような事業をしていますか。例えば野菜の販売、自動車の製造、旅館、銀行など、具体的にお聞かせください。

派遣の方は、派遣先の事業についてお答えください。

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問7 あなたは通常、そこでどのような仕事をしていますか。仕事の内容を具体的にお聞かせください。(例えば、小学校教員、塾の講師、農作業、バスの運転、自動車の修理、スーパーのレジ、銀行の経理、コンピュータのプログラマー、営業事務、化粧品の外回り営業……というように)

(できるだけ詳しく具体的に)

問8 あなたは、通常1週間に何時間働くことになっていますか。所定労働時間をお答えください。自営業の方は、ご自身で定めているおおよその時間をお答えください。

週合計で 時間

問9【回答票7】同じ会社・組織で働いている方の人数は、この中のどれにあたりますか。身近な職場だけではなく、会社・組織全体でお答えください。また、あなた自身、家族従業者、パートタイムの方など、働いている方すべてを含めてください。

省庁や自治体から給与を得ている場合 (公立学校の教師、消防署員など) は、すべて官公庁。公社は官公庁ではない。

派遣の方は、派遣先の規模についてお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|
| 1 (ア) 1 人 | 5 (オ) 30～99 人 | 9 (ケ) 1,000～1,999 人 |
| 2 (イ) 2 ～ 4 人 | 6 (カ) 100～299 人 | 10 (コ) 2,000～9,999 人 |
| 3 (ウ) 5 ～ 9 人 | 7 (キ) 300～499 人 | 11 (サ) 1 万人以上 |
| 4 (エ) 10～29 人 | 8 (ク) 500～999 人 | 12 (シ) 官 公 庁 |
| | | 13 わからない |

問10【回答票8】あなたは労働組合に入っていますか。この中から選んでください。

- | | | | |
|-------------------------------|---------------------------------|--------------------|------------|
| 1
(ア)
職場の労働組合に
入っている | 2
(イ)
職場以外の労働組合に
入っている | 3
(ウ)
入っていない | 4
わからない |
|-------------------------------|---------------------------------|--------------------|------------|

問11【回答票9】あなたの職場には、正社員や正規職員でない人、(派遣社員、契約社員、パート、アルバイト、臨時雇用) が、どれくらいいますか。

- | | | | | | |
|---------------------|---------------------|-------------------|---------------------|----------------------|------------|
| 1
(ア)
0～1割くらい | 2
(イ)
2～4割くらい | 3
(ウ)
5割くらい | 4
(エ)
6～8割くらい | 5
(オ)
9～10割くらい | 6
わからない |
|---------------------|---------------------|-------------------|---------------------|----------------------|------------|

問 12【回答票 10】現在の仕事にどのくらい満足していますか。この中から選んでください。

1	2	3	4	5	6
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	
満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である	わからない

問 13【回答票 11】今働いている会社（自営の場合は今の事業）をやめるつもりがありますか。

1	2	3	4
(ア)	(イ)	(ウ)	
近いうちにやめるつもり	当分やめるつもりはない	まったくやめるつもりはない	わからない

問 14【回答票 12】今後 1 年間にあなたが失業する可能性があると思いますか。

自営業主が倒産などで失職する場合も含む。

1	2	3	4	5
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	
かなりある	ある程度ある	あまりない	まったくない	わからない

（全員に）

あなたが 15 歳の頃ののことを思い出してください。中学校を卒業される頃のことです。

問 15 あなたが 15 歳の頃、どちらにお住まいでしたか。都道府県名をお答えください。

外国の場合は「外国」と記入し、これ以降の質問にも回答してもらう。

	都 道 府 県	コード	調査員は記入不要
--	---------	-----	----------

問 16【回答票 13】当時、お住まいの地域は、この中のどれにあたったと思いますか。

1	2	3	4
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)
大都市	中小都市	町	村

問 17 そこは農山漁村地域でしたか。

1	はい	2	いいえ
---	----	---	-----

問 18【回答票 14】そこは、現在のお住まいからどのくらい離れていますか。車、電車、飛行機など、通常利用できる交通手段にかかる時間を教えてください。

- 1 (ア) 現在の住まいと同じ
- 2 (イ) 15 分以内
- 3 (ウ) 30 分以内
- 4 (エ) 1 時間以内
- 5 (オ) 3 時間以内
- 6 (カ) それより遠い
- 7 わからない

問 19【回答票 15】あなたは何年に中学校を卒業されましたか。ご自身の生年月日から考えてお選びください。

あらかじめ記入していた年齢シートで、卒業年が「15 歳」と重なることを確認する。1 月 1 日～4 月 1 日生まれであれば、卒業年の右上が「15 歳」になり、4 月 2 日～12 月 31 日生まれであれば、卒業年の左上が「15 歳」になる。

- | | |
|--|---|
| 0 (ア) 1980 年(1964 年 4 月 2 日～65 年 4 月 1 日生) | 9 (コ) 1989 年(1973 年 4 月 2 日～74 年 4 月 1 日生) |
| 1 (イ) 1981 年(1965 年 4 月 2 日～66 年 4 月 1 日生) | 10 (サ) 1990 年(1974 年 4 月 2 日～75 年 4 月 1 日生) |
| 2 (ウ) 1982 年(1966 年 4 月 2 日～67 年 4 月 1 日生) | 11 (シ) 1991 年(1975 年 4 月 2 日～76 年 4 月 1 日生) |
| 3 (エ) 1983 年(1967 年 4 月 2 日～68 年 4 月 1 日生) | 12 (ス) 1992 年(1976 年 4 月 2 日～77 年 4 月 1 日生) |
| 4 (オ) 1984 年(1968 年 4 月 2 日～69 年 4 月 1 日生) | 13 (セ) 1993 年(1977 年 4 月 2 日～78 年 4 月 1 日生) |
| 5 (カ) 1985 年(1969 年 4 月 2 日～70 年 4 月 1 日生) | 14 (ソ) 1994 年(1978 年 4 月 2 日～79 年 4 月 1 日生) |
| 6 (キ) 1986 年(1970 年 4 月 2 日～71 年 4 月 1 日生) | 15 (タ) 1995 年(1979 年 4 月 2 日～80 年 4 月 1 日生) |
| 7 (ク) 1987 年(1971 年 4 月 2 日～72 年 4 月 1 日生) | 16 (チ) 1996 年(1980 年 4 月 2 日～81 年 4 月 1 日生) |
| 8 (ケ) 1988 年(1972 年 4 月 2 日～73 年 4 月 1 日生) | |

問 20 あなたが通った中学校は、国立ですか、公立ですか、私立（わたくしりつ）ですか。

- 1 国立 2 公立 3 私立 4 その他（ ）

問 21【回答票 16】中学校卒業後に通ったことのある学校を、このなかからすべて選んでください。

高等専門学校（高専）は、工業分野を中心として、中学卒業後に入る 5 年一貫の高等教育機関。専修学校・専門学校とは異なる。

- | | |
|----------------|-----------------------------------|
| 1 (ア) 高 校 | 5 (オ) 専修学校・専門学校 |
| 2 (イ) 短期大学（短大） | 6 (カ) 高等専門学校（高専） |
| 3 (ウ) 大 学 | 7 (キ) その他（ ） |
| 4 (エ) 大学院 | 8 (ク) いずれもない |

(高校に通ったことのある人に) 問21で「1 (ア) 高校」を選んだ回答者

問22-1 あなたが通った高校は、国立ですか、公立ですか、私立 (わたくしりつ) ですか。

複数の高校に通った場合は、最後に通ったもので答えてもらう。

1 国立 2 公立 3 私立 4 その他 ()

問22-2 【回答票17】 あなたの学科は、どれにあたりますか。

1 (ア) 普通科
 2 (イ) 工業に関する学科
 3 (ウ) 商業に関する学科
 4 (エ) その他 ()

問22-3 その高校を卒業しましたか。

1 卒業 2 中退 3 在学中

問22-4 いつからいつまでその高校に通っていましたか。

必要に応じて年齢シートを参照する。

空白期間がなければ、中学校を卒業したのと同じ年の4月から3年後の3月まで、となる。

19 年 月 から 19 年 月 まで
 20 年 月 から 20 年 月 まで

(短大・大学・大学院・専修学校・高専に通ったことのある人に) 問21で「2～6」のいずれかを選んだ回答者

中学校・高校以外に通っていた学校について、おうかがいします。いくつかの学校に通っていた場合には、古いものから順にお答えください。4つ以上の学校がある場合、余白に記入する。

問23-1 【回答票18】 その学校は、どれにあたりますか。

問23-2 その学校は、国立ですか、公立ですか、私立 (わたくしりつ) ですか。

問23-3 あなたの学部・学科 (専修学校の場合は、学んだ分野) を教えてください。

問23-4 その学校を卒業しましたか。

問23-5 その学校にはいつからいつまで通っていましたか。必要に応じて年齢シートを参照する。

	1つ目	2つ目	3つ目
学校の種類	2 (イ) 短期大学 (短大) 3 (ウ) 大学 4 (エ) 大学院 5 (オ) 専修学校・専門学校 6 (カ) 高等専門学校 (高専)	2 (イ) 短期大学 (短大) 3 (ウ) 大学 4 (エ) 大学院 5 (オ) 専修学校・専門学校 6 (カ) 高等専門学校 (高専)	2 (イ) 短期大学 (短大) 3 (ウ) 大学 4 (エ) 大学院 5 (オ) 専修学校・専門学校 6 (カ) 高等専門学校 (高専)
国公立	1 国立 2 公立 3 私立 4 その他 ()	1 国立 2 公立 3 私立 4 その他 ()	1 国立 2 公立 3 私立 4 その他 ()
学部・学科			
卒業	1 卒業 2 中退 3 在学中	1 卒業 2 中退 3 在学中	1 卒業 2 中退 3 在学中
在学期間	19 年 月 から 19 年 月 まで 20 年 月 から 20 年 月 まで	19 年 月 から 19 年 月 まで 20 年 月 から 20 年 月 まで	19 年 月 から 19 年 月 まで 20 年 月 から 20 年 月 まで

(全員に)

次に、これまでの仕事の移り変わりについて、おうかがいします。

問24 【回答票19】 あなたは、学生時代にアルバイトをしていましたか。アルバイトをしていたことのある時期をすべて選んでください。

予備校時代なども「3 (ウ)」に含む。

- 1 (ア) 中学校時代 (およそ15歳まで)
 2 (イ) 高校時代 (およそ15～18歳)
 3 (ウ) 高校卒業後の学生時代 (およそ18歳以降)
 4 (エ) 学生時代にアルバイトはしていない
 5 わからない

問 25 学生時代のアルバイトを除いて、あなたは、これまでに収入をとまなう仕事についてありますか。

1 2
ある ない

↓ ↓

19 ページ 問 33-1 へ

問 26 最初のお勤め先で働き始めたのはいつですか。

そのお勤め先は、今でも続けていますか。(続けていない場合) いつやめましたか。

必要に応じて年齢シートを参照する。

空白期間がなければ、高卒後の就職は中学校を卒業した年の3年後の4月で、大卒後の就職は7年後の4月となる。

最初のお勤め先	19		年		月	から	1	19		年		月	まで
	20						2	現在まで					

問 27-1 最初のお勤め先の後、別のお勤め先につきましたか。合併や吸収などにもない、所属組織が変化した場合や、派遣先が変わった場合は、勤め先が変わったとしてお答えください。派遣会社に登録されていた場合は、実際にお仕事をした期間をお答えください。

問 27-2 2 番目のお勤め先で働き始めたのはいつですか。

問 27-3 そのお勤め先は、今でも続けていますか。(続けていない場合) いつやめましたか。

(以下、同じようにしてすべての勤め先について繰り返す。勤め先がなくなれば次の問へ)

必要に応じて年齢シートを参照する。

前の仕事の終了年月と次の仕事の開始年月が重なっていても構わない。ただし、同じ時期に複数の勤め先があった場合には、主な勤め先1つについて答えてもらう。

産休・育休・病休などの期間も、在籍していれば働いている期間と考える。

10 個以上の勤め先があった場合、余白に記入する。

	問 27-1 有無	問 27-2 開始年月	問 27-3 終了年月
2 番目の 勤め先	1 あり 2 なし	19 年 月 から 20 年 月	1 19 年 月 まで 20 年 月 2 現在まで
3 番目の 勤め先	1 あり 2 なし	19 年 月 から 20 年 月	1 19 年 月 まで 20 年 月 2 現在まで
4 番目の 勤め先	1 あり 2 なし	19 年 月 から 20 年 月	1 19 年 月 まで 20 年 月 2 現在まで
5 番目の 勤め先	1 あり 2 なし	19 年 月 から 20 年 月	1 19 年 月 まで 20 年 月 2 現在まで
6 番目の 勤め先	1 あり 2 なし	19 年 月 から 20 年 月	1 19 年 月 まで 20 年 月 2 現在まで

10

問 28 一度離れたお勤め先にまた戻って働くようになったことがありますか。あれば、どのお勤め先とどのお勤め先が同じ会社・組織か教えてください。

1 ない 2 ある

1 番号のお勤め先と 2 番号のお勤め先が同じ

3 番号のお勤め先と 4 番号のお勤め先が同じ

問 29 では、あなたは今までに〇〇個のお勤め先を経験されたのですね。

同じ勤め先に戻った場合には、重複して数えない。

勤め先の数 個

問 30-1 【回答票 20】 あなたは、最初の仕事につくために、どのような就職活動をしましたか。就職に結びついたものも、結びつかなかったものも、すべて選んでください。

問 30-2 【回答票 20】 では、そのうち実際に就職に結びついたものはどれでしたか。1つだけ選んでください。

	問 30-1 あてはまる活動 すべてに○	問 30-2 就職に結びついた活動 1つだけに○
家族や親戚の紹介、家業を継ぐ、家業に入る	1 (ア)	1 (ア)
友人や知人の紹介、その勤め先からの勧誘	2 (イ)	2 (イ)
学校推薦、学校の先生や先輩の紹介	3 (ウ)	3 (ウ)
求人広告や求人情報に応募、就職試験を受験	4 (エ)	4 (エ)
職業安定所や民間の職業紹介所の紹介	5 (オ)	5 (オ)
自分で事業を始める	6 (カ)	6 (カ)
その他(具体的に)	7 (キ)	7 (キ)
わからない	8	8

7 番目の 勤め先	1 あり 2 なし	19 年 月 から 20 年 月	1 19 年 月 まで 20 年 月 2 現在まで
8 番目の 勤め先	1 あり 2 なし	19 年 月 から 20 年 月	1 19 年 月 まで 20 年 月 2 現在まで
9 番目の 勤め先	1 あり 2 なし	19 年 月 から 20 年 月	1 19 年 月 まで 20 年 月 2 現在まで

11

では、これまでのお仕事について順に少し詳しくお聞きいたします。同じ時期に複数の仕事をしていた場合には、その時期の主な仕事 1 つについてお答えください。最初のお勤め先についてお聞きいたします。

(最初に働き始めた勤め先が現在の主な勤め先の場合には、たずねなくてよい→問 31-1Cへ進む)

問 31-1A そのお勤め先はどのような事業をしていましたか。具体的にお聞かせください。

派遣だった方は、派遣先の事業についてお答えください。

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問 31-1B【回答票 21】同じ会社・組織で働いていた方の人数は、この中のどれにあたりますか。会社・組織全体でお答えください。

派遣だった方は、派遣先の規模についてお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|
| 1 (ア) 1 人 | 5 (オ) 30～99 人 | 9 (ケ) 1,000～1,999 人 |
| 2 (イ) 2～4 人 | 6 (カ) 100～299 人 | 10 (コ) 2,000～9,999 人 |
| 3 (ウ) 5～9 人 | 7 (キ) 300～499 人 | 11 (サ) 1 万人以上 |
| 4 (エ) 10～29 人 | 8 (ク) 500～999 人 | 12 (シ) 官 公 庁 |
| | 13 | わからない |

問 31-1C【回答票 22】そこで働き始めたころのあなたは、この中のどれにあたりますか。

問 31-1D (常時雇用の一般従業者のみ)【回答票 23】最初のあなたの役職は、この中のどれにあたりますか。

問 31-1E あなたは、そこで最初どのような仕事をしていましたか。具体的にお聞かせください。

問 31-1F【回答票 24】その後、そのお勤め先の中で、「働き方」や「役職」「仕事内容」が変わったことはありませんか。あれば、いつ、どのように変化したかを、早いものから順に教えてください。

変化のなかった箇所には斜線を引く。3 回以上の変化があった場合、余白に記入する。

	最初のお勤め先での働き始め	変化 1	変化 2
C 働き方 (従業員上の地位)	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない
D 役職	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない
E 仕事内容			
F 変化の期		19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月

12

2 番目の勤め先についてお聞きいたします。2 番目の勤め先がなければ 18 ページの問 32-1へ。

(2 番目の勤め先が現在の主な勤め先の場合には、たずねなくてよい→問 31-2Cへ進む)

問 31-2A そのお勤め先はどのような事業をしていましたか。具体的にお聞かせください。

派遣だった方は、派遣先の事業についてお答えください。

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問 31-2B【回答票 21】同じ会社・組織で働いていた方の人数は、この中のどれにあたりますか。会社・組織全体でお答えください。

派遣だった方は、派遣先の規模についてお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|
| 1 (ア) 1 人 | 5 (オ) 30～99 人 | 9 (ケ) 1,000～1,999 人 |
| 2 (イ) 2～4 人 | 6 (カ) 100～299 人 | 10 (コ) 2,000～9,999 人 |
| 3 (ウ) 5～9 人 | 7 (キ) 300～499 人 | 11 (サ) 1 万人以上 |
| 4 (エ) 10～29 人 | 8 (ク) 500～999 人 | 12 (シ) 官 公 庁 |
| | 13 | わからない |

問 31-2C【回答票 22】そこで働き始めたころのあなたは、この中のどれにあたりますか。

問 31-2D (常時雇用の一般従業者のみ)【回答票 23】最初のあなたの役職は、この中のどれにあたりますか。

問 31-2E あなたは、そこで最初どのような仕事をしていましたか。具体的にお聞かせください。

問 31-2F【回答票 24】その後、そのお勤め先の中で、「働き方」や「役職」「仕事内容」が変わったことはありませんか。あれば、いつ、どのように変化したかを、早いものから順に教えてください。

変化のなかった箇所には斜線を引く。3 回以上の変化があった場合、余白に記入する。

	2 番目の勤め先での働き始め	変化 1	変化 2
C 働き方 (従業員上の地位)	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない
D 役職	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない
E 仕事内容			
F 変化の期		19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月

13

3番目のお勤め先についておうかがいします。3番目の勤め先がなければ18ページの問32-1へ。

(3番目の勤め先が現在の主な勤め先の場合には、たずねなくてよい問31-3Cへ進む)

問31-3A そのお勤め先はどのような事業をしていましたか。具体的にお聞かせください。

派遣だった方は、派遣先の事業についてお答えください。

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問31-3B【回答票21】同じ会社・組織で働いていた方の人数は、この中のどれにあたりますか。会社・組織全体でお答えください。

派遣だった方は、派遣先の規模についてお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|
| 1 (ア) 1 人 | 5 (オ) 30~99 人 | 9 (ケ) 1,000~1,999 人 |
| 2 (イ) 2 ~ 4 人 | 6 (カ) 100~299 人 | 10 (コ) 2,000~9,999 人 |
| 3 (ウ) 5 ~ 9 人 | 7 (キ) 300~499 人 | 11 (サ) 1 万人以上 |
| 4 (エ) 10~29 人 | 8 (ク) 500~999 人 | 12 (シ) 官 公 庁 |
| | 13 | わからない |

問31-3C【回答票22】そこで働き始めたころのあなたは、この中のどれにあたりますか。

問31-3D (常時雇用の一般従業者のみ)【回答票23】最初のあなたの役職は、この中のどれにあたりますか。

問31-3E あなたは、そこで最初どのような仕事をしていましたか。具体的にお聞かせください。

問31-3F【回答票24】その後、そのお勤め先の中で、「働き方」や「役職」「仕事内容」が変わったことはありましたか。あれば、いつ、どのように変化したかを、早いものから順に教えてください。

変化のなかった箇所には斜線を引く。3回以上の変化があった場合、余白に記入する。

	3番目の勤め先で働き始め	変化1	変化2
C 働き方 (従業員上の地位)	1 (ア)経営者・役員 2 (イ)常時雇用の一般従業者 3 (ウ)臨時雇用 (パート・アルバイト・契約嘱託社員・内職) 4 (エ)派遣社員 5 (オ)自営業主・自由業者 6 (カ)家族従業者 7 わからない	1 (ア)経営者・役員 2 (イ)常時雇用の一般従業者 3 (ウ)臨時雇用 (パート・アルバイト・契約嘱託社員・内職) 4 (エ)派遣社員 5 (オ)自営業主・自由業者 6 (カ)家族従業者 7 わからない	1 (ア)経営者・役員 2 (イ)常時雇用の一般従業者 3 (ウ)臨時雇用 (パート・アルバイト・契約嘱託社員・内職) 4 (エ)派遣社員 5 (オ)自営業主・自由業者 6 (カ)家族従業者 7 わからない
D 役職	1 (ア)役職なし 2 (イ)職長・班長・組長など 3 (ウ)係長 (係長相当) 4 (エ)課長 (課長相当) 5 (オ)部長 (部長相当) 6 (カ)その他の役職 7 わからない	1 (ア)役職なし 2 (イ)職長・班長・組長など 3 (ウ)係長 (係長相当) 4 (エ)課長 (課長相当) 5 (オ)部長 (部長相当) 6 (カ)その他の役職 7 わからない	1 (ア)役職なし 2 (イ)職長・班長・組長など 3 (ウ)係長 (係長相当) 4 (エ)課長 (課長相当) 5 (オ)部長 (部長相当) 6 (カ)その他の役職 7 わからない
E 仕事内容			
F 変化の期		19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月

4番目のお勤め先についておうかがいします。4番目の勤め先がなければ18ページの問32-1へ。

(4番目の勤め先が現在の主な勤め先の場合には、たずねなくてよい問31-4Cへ進む)

問31-4A そのお勤め先はどのような事業をしていましたか。具体的にお聞かせください。

派遣だった方は、派遣先の事業についてお答えください。

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問31-4B【回答票21】同じ会社・組織で働いていた方の人数は、この中のどれにあたりますか。会社・組織全体でお答えください。

派遣だった方は、派遣先の規模についてお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|
| 1 (ア) 1 人 | 5 (オ) 30~99 人 | 9 (ケ) 1,000~1,999 人 |
| 2 (イ) 2 ~ 4 人 | 6 (カ) 100~299 人 | 10 (コ) 2,000~9,999 人 |
| 3 (ウ) 5 ~ 9 人 | 7 (キ) 300~499 人 | 11 (サ) 1 万人以上 |
| 4 (エ) 10~29 人 | 8 (ク) 500~999 人 | 12 (シ) 官 公 庁 |
| | 13 | わからない |

問31-4C【回答票22】そこで働き始めたころのあなたは、この中のどれにあたりますか。

問31-4D (常時雇用の一般従業者のみ)【回答票23】最初のあなたの役職は、この中のどれにあたりますか。

問31-4E あなたは、そこで最初どのような仕事をしていましたか。具体的にお聞かせください。

問31-4F【回答票24】その後、そのお勤め先の中で、「働き方」や「役職」「仕事内容」が変わったことはありましたか。あれば、いつ、どのように変化したかを、早いものから順に教えてください。

変化のなかった箇所には斜線を引く。3回以上の変化があった場合、余白に記入する。

	4番目の勤め先で働き始め	変化1	変化2
C 働き方 (従業員上の地位)	1 (ア)経営者・役員 2 (イ)常時雇用の一般従業者 3 (ウ)臨時雇用 (パート・アルバイト・契約嘱託社員・内職) 4 (エ)派遣社員 5 (オ)自営業主・自由業者 6 (カ)家族従業者 7 わからない	1 (ア)経営者・役員 2 (イ)常時雇用の一般従業者 3 (ウ)臨時雇用 (パート・アルバイト・契約嘱託社員・内職) 4 (エ)派遣社員 5 (オ)自営業主・自由業者 6 (カ)家族従業者 7 わからない	1 (ア)経営者・役員 2 (イ)常時雇用の一般従業者 3 (ウ)臨時雇用 (パート・アルバイト・契約嘱託社員・内職) 4 (エ)派遣社員 5 (オ)自営業主・自由業者 6 (カ)家族従業者 7 わからない
D 役職	1 (ア)役職なし 2 (イ)職長・班長・組長など 3 (ウ)係長 (係長相当) 4 (エ)課長 (課長相当) 5 (オ)部長 (部長相当) 6 (カ)その他の役職 7 わからない	1 (ア)役職なし 2 (イ)職長・班長・組長など 3 (ウ)係長 (係長相当) 4 (エ)課長 (課長相当) 5 (オ)部長 (部長相当) 6 (カ)その他の役職 7 わからない	1 (ア)役職なし 2 (イ)職長・班長・組長など 3 (ウ)係長 (係長相当) 4 (エ)課長 (課長相当) 5 (オ)部長 (部長相当) 6 (カ)その他の役職 7 わからない
E 仕事内容			
F 変化の期		19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月

5番目のお勤め先についておうかがいします。5番目の勤め先がなければ18ページの問32-1へ。

(5番目の勤め先が現在の主な勤め先の場合には、たずねなくてよい→問31-5Cへ進む)

問31-5A そのお勤め先はどのような事業をしていましたか。具体的にお聞かせください。

派遣だった方は、派遣先の事業についてお答えください。

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問31-5B【回答票21】同じ会社・組織で働いていた方の人数は、この中のどれにあたりますか。会社・組織全体でお答えください。

派遣だった方は、派遣先の規模についてお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|
| 1 (ア) 1 人 | 5 (オ) 30～99 人 | 9 (ケ) 1,000～1,999 人 |
| 2 (イ) 2 ～ 4 人 | 6 (カ) 100～299 人 | 10 (コ) 2,000～9,999 人 |
| 3 (ウ) 5 ～ 9 人 | 7 (キ) 300～499 人 | 11 (サ) 1 万人以上 |
| 4 (エ) 10～29 人 | 8 (ク) 500～999 人 | 12 (シ) 官 公 庁 |
| | | 13 わからない |

問31-5C【回答票22】そこで働き始めたころのあなたは、この中のどれにあたりますか。

問31-5D (常時雇用の一般従業者のみ)【回答票23】最初のあなたの役職は、この中のどれにあたりますか。

問31-5E あなたは、そこで最初どのような仕事をしていましたか。具体的にお聞かせください。

問31-5F【回答票24】その後、そのお勤め先の中で、「働き方」や「役職」「仕事内容」が変わったことはありましたか。あれば、いつ、どのように変化したかを、早いものから順に教えてください。

変化のなかった箇所には斜線を引く。3回以上の変化があった場合、余白に記入する。

	5番目の勤め先で働き始め	変化1	変化2
C 働き方 (従業員上の地位)	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない
D 役職	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない
E 仕事内容			
F 変化の時期		19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月

6番目のお勤め先についておうかがいします。6番目の勤め先がなければ18ページの問32-1へ。

(6番目の勤め先が現在の主な勤め先の場合には、たずねなくてよい→問31-6Cへ進む)

問31-6A そのお勤め先はどのような事業をしていましたか。具体的にお聞かせください。

派遣だった方は、派遣先の事業についてお答えください。

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問31-6B【回答票21】同じ会社・組織で働いていた方の人数は、この中のどれにあたりますか。会社・組織全体でお答えください。

派遣だった方は、派遣先の規模についてお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|
| 1 (ア) 1 人 | 5 (オ) 30～99 人 | 9 (ケ) 1,000～1,999 人 |
| 2 (イ) 2 ～ 4 人 | 6 (カ) 100～299 人 | 10 (コ) 2,000～9,999 人 |
| 3 (ウ) 5 ～ 9 人 | 7 (キ) 300～499 人 | 11 (サ) 1 万人以上 |
| 4 (エ) 10～29 人 | 8 (ク) 500～999 人 | 12 (シ) 官 公 庁 |
| | | 13 わからない |

問31-6C【回答票22】そこで働き始めたころのあなたは、この中のどれにあたりますか。

問31-6D (常時雇用の一般従業者のみ)【回答票23】最初のあなたの役職は、この中のどれにあたりますか。

問31-6E あなたは、そこで最初どのような仕事をしていましたか。具体的にお聞かせください。

問31-6F【回答票24】その後、そのお勤め先の中で、「働き方」や「役職」「仕事内容」が変わったことはありましたか。あれば、いつ、どのように変化したかを、早いものから順に教えてください。

変化のなかった箇所には斜線を引く。3回以上の変化があった場合、余白に記入する。

	6番目の勤め先で働き始め	変化1	変化2
C 働き方 (従業員上の地位)	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない	1 (ア) 経営者・役員 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約・嘱託社員・内職) 4 (エ) 派遣社員 5 (オ) 自営業主・自由業者 6 (カ) 家族従業者 7 わからない
D 役職	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない	1 (ア) 役職なし 2 (イ) 職長・班長・組長など 3 (ウ) 係長 (係長相当) 4 (エ) 課長 (課長相当) 5 (オ) 部長 (部長相当) 6 (カ) その他の役職 7 わからない
E 仕事内容			
F 変化の時期		19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月

勤め先が7つ以上ある場合は、補助用紙を使う。

(今までに働いたことのある人全員に)

問 32-1 現在の職業に役立っている資格を何かお持ちですか。現在無職の方は、もっとも最近の仕事に役立った資格についてお答えください。

1 持っている 2 持っていない

問 32-2 お仕事に役立った順に3つまで、資格の名称を教えてください。

同じ種類の資格については、上級資格のみを答えてもらう(例:実用英語技能検定2級と3級では2級のみ)。

問 32-3 【回答票 25】それぞれの資格を取得した時期を教えてください。

問 32-4 【回答票 26】それぞれの資格を取ったいきさつについて、もっともあてはまるものを1つだけ選んでください。

問 32-5 【回答票 27】それぞれの資格はお仕事にどのように役立ちましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

	1つ目の資格	2つ目の資格	3つ目の資格
名称			
時期	1 (ア) 学生の頃 2 (イ) 最初の仕事につく前 3 (ウ) 最初の仕事についてすぐ 4 (エ) 働き始めて2~3年後 5 (オ) それ以降	1 (ア) 学生の頃 2 (イ) 最初の仕事につく前 3 (ウ) 最初の仕事についてすぐ 4 (エ) 働き始めて2~3年後 5 (オ) それ以降	1 (ア) 学生の頃 2 (イ) 最初の仕事につく前 3 (ウ) 最初の仕事についてすぐ 4 (エ) 働き始めて2~3年後 5 (オ) それ以降
いきさつ	1 (ア) 学校で卒業や進級に必要な条件だった 2 (イ) 学校で取得をすすめられた 3 (ウ) 職場で取得を義務づけられた 4 (エ) 職場で取得をすすめられた 5 (オ) 親に取得をすすめられた 6 (カ) 自分からすすんで取得した 7 (キ) その他 () 8 わからない	1 (ア) 学校で卒業や進級に必要な条件だった 2 (イ) 学校で取得をすすめられた 3 (ウ) 職場で取得を義務づけられた 4 (エ) 職場で取得をすすめられた 5 (オ) 親に取得をすすめられた 6 (カ) 自分からすすんで取得した 7 (キ) その他 () 8 わからない	1 (ア) 学校で卒業や進級に必要な条件だった 2 (イ) 学校で取得をすすめられた 3 (ウ) 職場で取得を義務づけられた 4 (エ) 職場で取得をすすめられた 5 (オ) 親に取得をすすめられた 6 (カ) 自分からすすんで取得した 7 (キ) その他 () 8 わからない
役立ち方	1 (ア) 資格がないと仕事につけなかった 2 (イ) 給与や手当での前で優遇された 3 (ウ) 希望する仕事を任せてもらえた 4 (エ) 昇格・昇進に役立った 5 (オ) 転職(自営独立)・再就職に役立った 6 (カ) 技能の証明に役立った 7 (キ) その他 ()	1 (ア) 資格がないと仕事につけなかった 2 (イ) 給与や手当での前で優遇された 3 (ウ) 希望する仕事を任せてもらえた 4 (エ) 昇格・昇進に役立った 5 (オ) 転職(自営独立)・再就職に役立った 6 (カ) 技能の証明に役立った 7 (キ) その他 ()	1 (ア) 資格がないと仕事につけなかった 2 (イ) 給与や手当での前で優遇された 3 (ウ) 希望する仕事を任せてもらえた 4 (エ) 昇格・昇進に役立った 5 (オ) 転職(自営独立)・再就職に役立った 6 (カ) 技能の証明に役立った 7 (キ) その他 ()

18

(全員に) ここからは、あなたのご家族のことについておうかがいします。

問 33-1 あなたはこれまでに結婚をしたことがありますか。

本人の判断にまかせるが、尋ねられたら、婚姻届を出していない内縁の関係も結婚に含めて考える。

1 ある 2 ない

問 33-2 【回答票 28】いつ結婚されましたか。何度か結婚された方は、1つ1つについてお教えてください。必要に応じて年齢シートを参照する。3回以上結婚している場合、余白に記入する。

19 年 月 に結婚して	1 (ア) 現在も結婚が続いている 2 (イ) その後、離別した 3 (ウ) その後、死別した
20 年 月 に結婚して	1 (ア) 現在も結婚が続いている 2 (イ) その後、離別した 3 (ウ) その後、死別した

問 34 これまでにお持ちになったお子様は何人ですか。独立した方、亡くなった方も含めてお答えください。いない場合は0(ゼロ)と記入。養子・連れ子について尋ねられた場合は、含めて答えてもらう。

人

0 子どもをもったことはない → 20 ページ問 37 へ

そのお子様全員についてうかがいます。生まれたのが早いお子様から順にお答えください。

6人以上の場合は、補助用紙を使用する。

	1人目	2人目	3人目	4人目	5人目
問 35-1 そのお子様の性別を教えてください。	1 男 2 女	1 男 2 女	1 男 2 女	1 男 2 女	1 男 2 女
問 35-2 そのお子様は何年何月に生まれましたか。必要に応じて年齢シートを参照する。	19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月	19 年 月 20 年 月
問 35-3 そのお子様は保育所に通ったことがありますか。あれば、何歳から通いましたか。1ヶ月未満でやめた場合は除く。	1 歳から通った 2 通っていない	1 歳から通った 2 通っていない	1 歳から通った 2 通っていない	1 歳から通った 2 通っていない	1 歳から通った 2 通っていない
問 35-4 幼稚園についてはどうですか。1ヶ月未満でやめた場合は除く。	1 歳から通った 2 通っていない	1 歳から通った 2 通っていない	1 歳から通った 2 通っていない	1 歳から通った 2 通っていない	1 歳から通った 2 通っていない
問 35-5 そのお子様について、あなた自身は育児休業をとりましたか。無職だった場合や、制度がなかった場合も「2」に含む。	1 とった 2 とっていない	1 とった 2 とっていない	1 とった 2 とっていない	1 とった 2 とっていない	1 とった 2 とっていない
問 35-6 そのお子様はご存命ですか。ご存命の場合、あなたと一緒に暮らしていますか。	1 同居 2 別居 3 死亡	1 同居 2 別居 3 死亡	1 同居 2 別居 3 死亡	1 同居 2 別居 3 死亡	1 同居 2 別居 3 死亡

19

問36 [回答票29] 昨年1年間にかかった、あなたの子どもの教育費は、世帯全体でこの中のどれにあたりますか。幼児から専門学校生、大学生まですべて。教育費には、在学中の子どもの下宿代・仕送りを含む。

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1 (ア) なし | 9 (ケ) 50～100万円未満 |
| 2 (イ) 3万円未満 | 10 (コ) 100～200万円未満 |
| 3 (ウ) 3～5万円未満 | 11 (サ) 200～300万円未満 |
| 4 (エ) 5～10万円未満 | 12 (シ) 300万円以上 |
| 5 (オ) 10～15万円未満 | 13 (ス) すべての子どもが学業を終えている |
| 6 (カ) 15～20万円未満 | 14 回答したくない |
| 7 (キ) 20～30万円未満 | 15 わからない |
| 8 (ク) 30～50万円未満 | |

(全員に)

問37 [回答票30] あなたは結婚していますか。この中から選んでください。

本人の判断にまかせるが、尋ねられたら、婚姻届を出していない内縁の関係も1 (ア)「現在、配偶者がいる」に含む。
選択肢5、6は、対象者があてそのように答えた場合にのみ印を付ける。
以後の設問では、内縁や同棲中は有配偶者とみなす。

- | | | | | | |
|-----------------|----------|----------|----------|-------------|-------|
| 1 (ア) 現在、配偶者がいる | 2 (イ) 離別 | 3 (ウ) 死別 | 4 (エ) 未婚 | 5 離婚を前提に別居中 | 6 同棲中 |
|-----------------|----------|----------|----------|-------------|-------|
- 23 ページ問 50-1 へ

問38 配偶者の方の年齢を教えてください。

--	--	--	--

 歳

問39 配偶者の方とは一緒に暮らしていますか。

- 1 同居 2 別居 (仕事の都合) 3 別居 (その他の理由)

問40 [回答票31] 配偶者の方が、最後に通った (または現在通っている) 学校は、次のどれにあたりますか。

中退も卒業と同じ扱いでお答えください。

最後に通った学校が専門学校という場合には、以下のようにする。

高等専門学校 (工業分野を中心として、中学卒業後に入る5年一貫の高等教育機関) → 3 (ウ) に○をする。
専修学校の一般課程・専門課程・高等課程 (一般に専門学校と呼ばれるもの) → その学校に入る前の学校を尋ねる。

- 1 (ア) 中学校
2 (イ) 高校
3 (ウ) 高等専門学校 (高専) 高専と専修学校・専門学校とを混同していないか確認する。
4 (エ) 短期大学 (短大)
5 (オ) 大学
6 (カ) 大学院
7 わからない

問41 あなたの配偶者は専門学校・専修学校に通ったことがありますか。高等専門学校は含みません。

- 1 通ったことがある 2 通ったことがない

問42-1 [回答票32] 配偶者の方は先週、収入をとまなう仕事をしましたか。この中からあげてください。

- | | | |
|-------------|---------------------------------------|----------------|
| 1 (ア) 仕事をした | 2 (イ) 仕事をもっているが、
病気、休暇などで先週は仕事を休んだ | 3 (ウ) 仕事をしていない |
|-------------|---------------------------------------|----------------|
- 問42-2 [回答票33] 配偶者の方の先週の状態は、この中のどれにあたりますか。
- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1 (ア) 失業中 | 5 (エ) 心身上の事情で働けない |
| 3 (イ) 学 生 | 6 (オ) その他 (具体的に) |
| 4 (ウ) 主に家事をしている | 7 わからない |
- 23 ページ問 50-1 へ

問43 配偶者の方は、先週、残業も含めて仕事を合計何時間しましたか。2つ以上仕事をお持ちの場合は、主な仕事1つとそれ以外の仕事にわけて、それぞれの時間を教えてください。

副業を持っていない場合は、副業の時間数に0 (ゼロ) と記入する。

先週、病気や休暇などで仕事をしなかった場合は、ふだんの状態について答えてもらう。

主な仕事を週合計で

 時間 副業を週合計で

 時間

配偶者の方のお仕事について少し詳しくお聞きがいたします。

2つ以上仕事をお持ちの方は、主な仕事1つについてお答えください。

問44-1 [回答票34] 配偶者の方の仕事は、大きく分けて、この中のどれにあたりますか。

1 (ア)「経営者」と5 (オ)「自営業主」のどちらを選択するかは、回答者自身の判断に任せる。
公務員の場合でも、これ以降の質問に回答してもらう。

- | | | | | | | |
|--------------|------------------|---------------------------------|------------|-----------------|-------------|---------|
| 1 (ア) 経営者・役員 | 2 (イ) 常時雇用の一般従業者 | 3 (ウ) 臨時雇用 (パート・アルバイト・契約職社員・内職) | 4 (エ) 派遣社員 | 5 (オ) 自営業主・自由業者 | 6 (カ) 家族従業者 | 7 わからない |
|--------------|------------------|---------------------------------|------------|-----------------|-------------|---------|

問44-2 [回答票35] 配偶者の方の役職は、この中のどれにあたりますか。

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 (ア) 役職なし | 5 (オ) 部長 (部長相当) |
| 2 (イ) 職長・班長・組長など | 6 (カ) その他の役職 (具体的に) |
| 3 (ウ) 係長 (係長相当) | 7 わからない |
| 4 (エ) 課長 (課長相当) | |

問 45 配偶者の方が働いているお勤め先は、どのような事業をしていますか。野菜の販売、自動車の製造、旅館、銀行など、具体的にお聞かせください。

派遣の方は、派遣先の事業についてお答えください。

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問 46 配偶者の方は通常、どのような仕事をしていますか。仕事の内容を具体的にお聞かせください。(例えば、小学校教員、塾の講師、農作業、バスの運転、自動車の修理、スーパーのレジ、銀行の経理、コンピュータのプログラマー、営業事務、化粧品の外回り営業……というように)

(できるだけ詳しく具体的に)

問 47 配偶者の方は、通常 1 週間に何時間働くことになっていますか。所定労働時間をお答えください。自営業の方は、ご自身で定めているおおよその時間をお答えください。

週合計で 時間

問 48 配偶者の方は、現在の会社・組織で、何年間働いてきましたか。自営業の方は、自営で働き始めてからの年数をお答えください。

年間 1 年未満の場合は 0 (ゼロ) と記入。

問 49 【回答票 36】 同じ会社・組織で働いている方の人数は、この中のどれにあたりますか。身近な職場だけではなく、会社・組織全体でお答えください。また、配偶者の方自身、家族従業者、パートタイムの方など、働いている方すべてを含めてください。

省庁や自治体から給与を得ている場合(公立学校の教師、消防署員など)は、すべて官公庁。公社は官公庁ではない。派遣の方は、派遣先の規模についてお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|
| 1 (ア) 1 人 | 5 (オ) 30~99 人 | 9 (ケ) 1,000~1,999 人 |
| 2 (イ) 2 ~ 4 人 | 6 (カ) 100~299 人 | 10 (コ) 2,000~9,999 人 |
| 3 (ウ) 5 ~ 9 人 | 7 (キ) 300~499 人 | 11 (サ) 1 万人以上 |
| 4 (エ) 10~29 人 | 8 (ク) 500~999 人 | 12 (シ) 官公庁 |
| | | 13 わからない |

(全員に)

問 50-1 あなた自身のお父さんとお母さんはご存命ですか。ご存命の場合、あなたと一緒に暮らしていますか。

二世帯住宅などの判断は回答者に任せるが、迷うときには「台所が同じ場合を同居とお考えください」と答える。

問 50-2 お父さん、お母さんの年齢を教えてください。

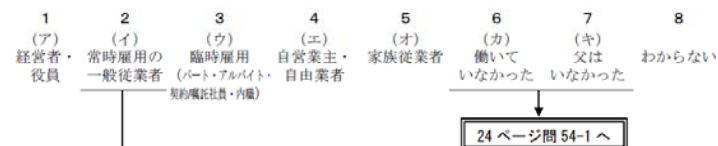
問 50-3 お父さん、お母さんの現在の婚姻状態を教えてください。

問 50-4 お父さん、お母さんは、現在、収入をとまなう仕事をしていますか。

	問 50-1 同居・死亡	問 50-2 年齢 死亡の場合聞かない	問 50-3 婚姻状態 死亡の場合聞かない	問 50-4 仕事の有無 死亡の場合聞かない
父親	1 同居 2 別居 3 死亡	歳	1 現在、配偶者がいる 2 離別 3 死別 4 未婚	1 している 2 していない
母親	1 同居 2 別居 3 死亡	歳	1 現在、配偶者がいる 2 離別 3 死別 4 未婚	1 している 2 していない

問 51-1 【回答票 37】 では、あなたが 15 歳の頃のお父さんの仕事は、大きく分けて、この中のどれにあたりますか。

1 (ア)「経営者」と 4 (エ)「自営業主」のどちらを選択するかは、回答者自身の判断に任せる。公務員の場合でも、これ以降の質問に回答してもらう。



問 51-2 【回答票 38】 当時のお父さんの役職は、この中のどれにあたりますか。

- | | |
|------------------|--|
| 1 (ア) 役職なし | 5 (オ) 部長 (部長相当) |
| 2 (イ) 職長・班長・組長など | 6 (カ) その他の役職
(具体的に <input type="text"/>) |
| 3 (ウ) 係長 (係長相当) | 7 わからない |
| 4 (エ) 課長 (課長相当) | |

問 52 当時のお父さんはどのような仕事をしていましたか。仕事の内容を具体的にお聞かせください。(例えば、小学校教員、塾の講師、農作業、バスの運転、自動車の修理、スーパーのレジ、銀行の経理、コンピュータのプログラマー、営業事務、化粧品の外回り営業……というように)

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問 53【回答票 39】お父さんが働いていた会社・組織で働いていた方の人数は、この中のどれにあたりますか。
お父さんの職場だけではなく、会社・組織全体でお答えください。また、お父さん自身、家族従業者、
パートタイムの方など、働いていた方すべてを含めてください。
省庁や自治体から給与を得ている場合（公立学校の教師、消防署員など）は、すべて官公庁。公社は官公庁ではない。

1	2	3	4	5	6	7
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	
1 人	小企業 (2～29 人)	中企業 (30～299 人)	大企業 (300～999 人)	大手大企業 (1,000 人以上)	官公庁	わからない

問 54-1【回答票 40】あなたが 15 歳の頃のお母さんの仕事についておうかがいします。お母さんの仕事は、
大きく分けて、この中のどれにあたりますか。

1 (ア)「経営者」と 4 (エ)「自営業主」のどちらを選択するかは、回答者自身の判断に任せる。
公務員の場合でも、これ以降の質問に回答してもらう。

1	2	3	4	5	6	7	8
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	
経営者・ 役員	常時雇用の 一般従業者	臨時雇用 (パート・アルバイト・ 契約職・派遣社員・内職)	自営業主・ 自由業者	家族従業者	働いて いなかった	母は いなかった	わからない

25 ページ 問 57 へ

問 54-2【回答票 41】当時のお母さんの役職は、この中のどれにあたりますか。

1 (ア) 役職なし	5 (オ) 部長（部長相当）
2 (イ) 職長・班長・組長など	6 (カ) その他の役職 (具体的に_____)
3 (ウ) 係長（係長相当）	7 わからない
4 (エ) 課長（課長相当）	

問 55 当時のお母さんはどのような仕事をしていましたか。仕事の内容を具体的にお聞かせください。（例
えば、小学校教員、塾の講師、農作業、バスの運転、自動車の修理、スーパーのレジ、銀行の経理、
コンピュータのプログラマー、営業事務、化粧品の外回り営業……というように）

(できるだけ詳しく具体的に。会社名のみは不可)

問 56【回答票 42】お母さんが働いていた会社・組織で働いていた方の人数は、この中のどれにあたりますか。
お父さんの職場だけではなく、会社・組織全体でお答えください。また、お母さん自身、家族従業者、
パートタイムの方など、働いていた方すべてを含めてください。

省庁や自治体から給与を得ている場合（公立学校の教師、消防署員など）は、すべて官公庁。公社は官公庁ではない。

1	2	3	4	5	6	7
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	
1 人	小企業 (2～29 人)	中企業 (30～299 人)	大企業 (300～999 人)	大手大企業 (1,000 人以上)	官公庁	わからない

問 57【回答票 43】お父さん、お母さんが最後に通った学校は次のどれにあたりますか。中退も卒業と同じ扱
いでお答えください。

新制高専は、工業分野を中心として、中学卒業後に入る 5 年一貫の高等教育機関。
専修学校・専門学校とは異なる。

	父 親	母 親
	↓	↓
(ア) 旧制尋常小学校（国民学校を含む）	1 (ア)	1 (ア)
(イ) 旧制高等小学校	2 (イ)	2 (イ)
(ウ) 旧制中学校・高等女学校	3 (ウ)	3 (ウ)
(エ) 旧制実業・商業学校	4 (エ)	4 (エ)
(オ) 旧制師範学校	5 (オ)	5 (オ)
(カ) 旧制高校・旧制高等専門学校・高等師範学校	6 (カ)	6 (カ)
(キ) 旧制大学・旧制大学院	7 (キ)	7 (キ)
(ク) 新制中学校	8 (ク)	8 (ク)
(ケ) 新制高校	9 (ケ)	9 (ケ)
(コ) 新制高専	10 (コ)	10 (コ)
(サ) 新制短大	11 (サ)	11 (サ)
(シ) 新制大学	12 (シ)	12 (シ)
(ス) 新制大学院	13 (ス)	13 (ス)
わからない	14	14

問 58 中学校を卒業して以降、お父様とお母様といつしよに暮らしていたのはいつからいつまでですか。一
度別居してからまた同居した場合も含めて、同居していた時期をすべて教えてください。

4 回以上ある場合には、余白に記入する。必要に応じて年齢シートを参照する。
離婚や死亡で、片方の親とだけ同居していた場合も含める。

1 同居期間あり 2 同居期間なし

1 回目	1 19 年 月 から	1 19 年 月 まで
	2 中学校卒業時から	2 現在まで
2 回目	1 19 年 月 から	1 19 年 月 まで
	2 現在まで	2 現在まで
3 回目	1 19 年 月 から	1 19 年 月 まで
	2 現在まで	2 現在まで

(現在、結婚している人に)

問 59 配偶者のお父様やお母様といっしょに暮らしたことはありますか。あればその時期をすべて教えてください。

問 35 で 1 (ア)「現在配偶者がいる」と 6「同棲中」と回答した者にのみ質問する。

4 回以上ある場合には、余白に記入する。必要に応じて年齢シートを参照する。

離婚や死亡で、片方の親とだけ同居していた場合も含める。

1 同居期間あり 2 同居期間なし

1 回目	1 19 年 月 から	1 19 年 月 まで
	2 結婚時から	2 現在まで
2 回目	1 19 年 月 から	1 19 年 月 まで
	2 現在まで	2 現在まで
3 回目	1 19 年 月 から	1 19 年 月 まで
	2 現在まで	2 現在まで

(全員に)

問 60 あなたと一緒に暮らしている方は、あなたをのぞいて何人になりますか。

同居者 人 + 本人 (1 人) = 合計 人

問 61【回答票 44】現在、あなたと一緒に暮らしている方をこのなかからすべて選んでください。

上の問と人数が同じになることを確認する。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 (ア) あなたご自身 | 9 (ケ) 配偶者の母親 |
| 2 (イ) 配偶者 | 10 (コ) あなたの祖父 |
| 3 (ウ) あなたの子ども (人) | 11 (サ) あなたの祖母 |
| 4 (エ) 子どもの配偶者 (人) | 12 (シ) 配偶者の祖父 |
| 5 (オ) 孫 (人) | 13 (ス) 配偶者の祖母 |
| 6 (カ) あなたの父親 | 14 (セ) あなたの兄弟姉妹 (人) |
| 7 (キ) あなたの母親 | 15 (ソ) 配偶者の兄弟姉妹 (人) |
| 8 (ク) 配偶者の父親 | 16 (タ) その他 () |

問 62【回答票 44】あなたの家の世帯主はどなたですか。

戸籍にかかわらず、回答者が世帯主と認識している人を記入し、必ず 1 名に絞ってもらう。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 (ア) あなたご自身 | 9 (ケ) 配偶者の母親 |
| 2 (イ) 配偶者 | 10 (コ) あなたの祖父 |
| 3 (ウ) あなたの子ども | 11 (サ) あなたの祖母 |
| 4 (エ) 子どもの配偶者 | 12 (シ) 配偶者の祖父 |
| 5 (オ) 孫 | 13 (ス) 配偶者の祖母 |
| 6 (カ) あなたの父親 | 14 (セ) あなたの兄弟姉妹 |
| 7 (キ) あなたの母親 | 15 (ソ) 配偶者の兄弟姉妹 |
| 8 (ク) 配偶者の父親 | 16 (タ) その他 () |

26

問 63-1 あなたの兄弟姉妹は何人ですか。亡くなった方も含めてお答えください。

いない場合は 0 (ゼロ) を記入。養子・連れ子などの場合に、誰を「兄弟姉妹」に含むかは本人の判断にまかせる。

あなたの兄弟姉妹	兄	姉	弟	妹
	人	人	人	人

問 63-2 現在、結婚されている方 (あるいは配偶者の方と死別された方) は、配偶者の兄弟姉妹についても人数を教えてください。亡くなった方も含めてお答えください。

配偶者が死別の場合にも尋ねる。未婚や離別の人には聞かない。いない場合は 0 (ゼロ) を記入。

配偶者の兄弟姉妹	兄	姉	弟	妹
	人	人	人	人

問 64【回答票 45】かりに現在の日本の社会全体を、次のような 10 段階の層に分けるとすれば、あなた自身はこのどれに入ると思いますか。

一番上 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 一番下

問 65-1【回答票 46】昨年 1 年間のあなたの家の世帯収入は、この中のどれにあたりますか。税金を差し引く前の収入でお答えください。仕事からの収入だけでなく、株式配当、年金、不動産収入などすべての収入を含わせてください。

問 65-2【回答票 46】そのうち、あなたご自身の収入はどのくらいですか。仕事以外からの収入も含めてください。

問 65-3 (現在、配偶者がいる方にのみ質問)【回答票 46】配偶者の方の収入についても教えてください。仕事以外からの収入も含めてください。

問 35 で 1 (ア)「現在配偶者がいる」と 6「同棲中」と回答した者にのみ質問する。

	問 65-1 世帯全体	問 65-2 本人	問 65-3 配偶者
	↓	↓	↓
な し	1 (ア)	1 (ア)	1 (ア)
70 万円未満	2 (イ)	2 (イ)	2 (イ)
70~100 万円未満	3 (ウ)	3 (ウ)	3 (ウ)
100~130 万円未満	4 (エ)	4 (エ)	4 (エ)
130~150 万円未満	5 (オ)	5 (オ)	5 (オ)
150~250 万円未満	6 (カ)	6 (カ)	6 (カ)
250~350 万円未満	7 (キ)	7 (キ)	7 (キ)
350~450 万円未満	8 (ク)	8 (ク)	8 (ク)
450~550 万円未満	9 (ケ)	9 (ケ)	9 (ケ)
550~650 万円未満	10 (コ)	10 (コ)	10 (コ)
650~750 万円未満	11 (サ)	11 (サ)	11 (サ)
750~850 万円未満	12 (シ)	12 (シ)	12 (シ)
850~1,000 万円未満	13 (ス)	13 (ス)	13 (ス)
1,000~1,200 万円未満	14 (セ)	14 (セ)	14 (セ)
1,200~1,400 万円未満	15 (ソ)	15 (ソ)	15 (ソ)
1,400~1,600 万円未満	16 (タ)	16 (タ)	16 (タ)
1,600~1,850 万円未満	17 (チ)	17 (チ)	17 (チ)
1,850~2,300 万円未満	18 (ツ)	18 (ツ)	18 (ツ)
2,300 万円以上	19 (テ)	19 (テ)	19 (テ)
回答したくない	20	20	20
わからない	21	21	21

27

問 66 【回答票 47】 あなたの現在のお住まいは、この中のどれにあたりますか。

- 1 (ア) 持ち家（親などが持ち主の場合も含む）
- 2 (イ) 民間の賃貸住宅
- 3 (ウ) 社宅・公務員住宅等の給与住宅
- 4 (エ) 公社・公団等の公営の賃貸住宅
- 5 (オ) その他（具体的に ）

問 67 あなたの現在のお住まいは、一戸建てですか、集合住宅ですか。

- 1 一戸建て
- 2 集合住宅（アパート・マンションなど）

問 68 【回答票 48】 中学校を卒業してから後のあなたの人生を振り返って、もっともつらかった時期はいつごろだと思いますか。

- 1 (ア) 19 年 月 から 20 年 月 ごろ
- 2 (イ) 今現在
- 3 (ウ) そのような時期はなかった
- 4 わからない

問 69 【回答票 48】 では、中学校を卒業してから後のあなたの人生を振り返って、もっともよかった時期はいつごろだと思いますか。

- 1 (ア) 19 年 月 から 20 年 月 ごろ
- 2 (イ) 今現在
- 3 (ウ) そのような時期はなかった
- 4 わからない

これで終わりです。長時間のご協力、誠にありがとうございました。

面接終了時間

時 分



文部科学大臣認可
日本版総合的社会調査共同研究拠点

【プリテスト留置調査票】

「第7回 生活と意識についての国際比較調査」

特別調査「働き方と暮らしについての調査」

Q0 現在の時刻をご記入ください。

時 分

最初に、あなたの日常的な生活について、おうかがいします。

Q1 あなたは、平均して1日に何時間くらいテレビを見ますか。まったく見ない方は0(ゼロ)とご記入ください。

時間くらい

Q2 あなたは、1ヶ月に何冊くらい本を読みますか。(マンガ、雑誌を除く)

0 1 2 3 4
ほとんど読まない 1冊程度 2冊程度 3冊程度 4冊以上

Q3 あなたは、どのくらいの頻度でマンガを読みますか。

1 2 3 4 5
ほぼ毎日 週数回 週1回程度 それ以下 まったく読まない

Q4-1 次の項目で、あなたが利用しているものすべてに○をつけてください。

1 パソコン (職場・学校で) 2 パソコン (自宅で) 3 携帯電話 (PHSを含む) 4 いずれも利用していない

Q4-2 あなたは、パソコンまたは携帯電話 (PHSを含む) のインターネットを利用して、次のことを行なっていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 情報検索 | 6 ブログ・掲示板へのコメントの書き込み |
| 2 インターネットショッピング | 7 相談サイトへの質問 |
| 3 インターネットバンキング | 8 オンラインチャット |
| 4 ホームページの作成 (ブログを含む) | 9 メール・ネットワーキング・サービスの利用 |
| 5 画像や音楽のダウンロード | 10 いずれも行なっていない |

Q4-3 あなたは、携帯電話 (PHSを含む) やパソコンを利用して、仕事以外のメールを送信することがどのくらいありますか。

1 2 3 4 5 6
1日に 1日に 1日に 週に 週に まったく
5回以上 3~4回 1~2回 数回 1回以下 しない

Q5 インターネットを通じて知り合って、ネット上だけでつきあっている人は、何人くらいいますか。

人くらい

Q6 あなたはパソコンに関して、以下のことができますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 コンピュータプログラムが作れる
- 2 簡単な表やグラフを作成できる
- 3 簡単な文書を作成できる
- 4 いずれもできない

Q7 あなたはインターネット上で出会う人は、誠実にふるまっていると思いますか。

- | | | | |
|------|------------------|--------------------|--------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう思う | どちらかといえば
そう思う | どちらかといえば
そう思わない | そう思わない |

Q8 あなたは現在、定期的に運動やスポーツ（ウォーキング、水泳、野球など）を行なっていますか。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|---------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 週に数回以上 | 週に1回程度 | 月に1回程度 | 年に数回程度 | ほとんどしない |

Q9 あなたは、どのくらいの頻度で1泊以上の旅行（仕事以外）をしますか。

- | | | | | |
|------|--------|------|--------|---------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 月に数回 | 月に1回程度 | 年に数回 | 年に1回程度 | まったくしない |

Q10 あなたは、どのくらいの頻度で次のことをしていますか。

- | | ほぼ
毎日 | 週に
数回 | 週に
1回程度 | 月に
1回程度 | 年に
数回 | 年に
1回程度 | まったく
していない |
|--------------------|----------|----------|------------|------------|----------|------------|---------------|
| A 家族と一緒にの夕食 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| B 友人との会食や集まり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| C 夕食の用意 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| D 洗濯 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| E 買い物（日用品や食料品の買い物） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| F 家の掃除 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| G ゴミ出し | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

Q11 あなたは、以下のことをどのくらい行ないますか。

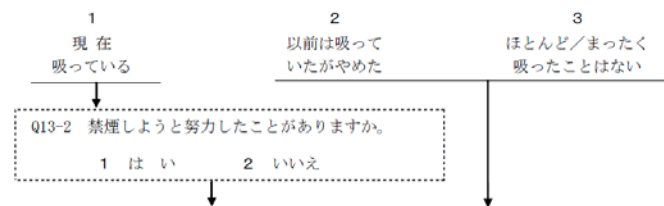
- | | 週に
数回 | 週に
1回程度 | 月に
1回程度 | 年に
数回 | 年に
1回程度 | まったく
していない |
|---------------------------|----------|------------|------------|----------|------------|---------------|
| A ドライブに行く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| B カラオケをする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| C 音楽をきく | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| D 美術館・博物館に行く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| E クラシックコンサートなどに行く | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| F 映画を見る(ビデオ・DVDを含む) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| G テレビゲームをする(PCゲーム・携帯用を含む) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| H マージャンをする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| I パチンコ・パチスロをする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| J 宝くじを買う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| K ガーデニング(庭いじり)をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

ここからは、あなたの心身の健康について、おうかがいします。

Q12 あなたの現在の健康状態は、いかがですか。



Q13-1 あなたは煙草（タバコ）を吸いますか。



Q14 あなたは、普段お酒を飲みますか。

- | | | | | | | |
|------------|----------|------------|------------|----------|------------|--------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ほとんど
毎日 | 週に
数回 | 週に
1回程度 | 月に
1回程度 | 年に
数回 | 年に
1回程度 | まったく
飲まない |

Q15 この1ヶ月のあなたの気分や心理的な状況についてお聞きます。回答例のように、以下のそれぞれの項目について、もっともあてはまる番号(1~5)を1つ選んでください。

いつも
そうである

全くそう
ではない

(回答例)

	1	2	3	4	5
A かなり神経質であったこと	1	2	3	4	5
B 落ち着いていて、おだやかな気分であったこと	1	2	3	4	5
C 落ち込んで、ゆううつな気分であったこと	1	2	3	4	5
D 楽しい気分であったこと	1	2	3	4	5
E どうにもならないくらい気分が落ち込んでいたこと	1	2	3	4	5

Q16 過去5年間に、深く心に傷を受けるような衝撃的なできごと（例えば、離婚、失業、大きな病気やケガ、身近な人の死）を何回経験しましたか。

0	1	2	3	4
なし	1回	2回	3回	4回以上

Q17 生活面に関する以下の項目について、あなたはどのくらい満足していますか。それぞれについて番号（1～5）を1つ選んでください。

	満 足					不 満	
							
A 住んでいる地域	1	2	3	4	5		
B 余暇の過ごし方	1	2	3	4	5		
C 家 庭 生 活	1	2	3	4	5		
D 現在の家計状態	1	2	3	4	5		
E 友 人 関 係	1	2	3	4	5		
F 健 康 状 態	1	2	3	4	5		
G 配偶者（夫や妻）との関係	1	2	3	4	5	6 配偶者はいない	

Q18 あなたは、現在幸せですか。

幸せ ←————→ 不幸せ

1 2 3 4 5

ここからはあなたの仕事に関することについておうかがいします。

Q19 あなたはいままで、いわゆるフリーターのような働き方をしたことがありますか。

1	2	3
現在している	過去にしたことがある	したことがない

Q20 学生時代のアルバイトを除いて、あなたは、これまでに収入をとまなう仕事についていたことがありますか。

```

graph TD
    1[1  
ある] --> 2[2  
ない]
    2 --> 3[7 ページ 024-1 へ]

```

Q21 あなたの今の職場には、次のことがどの程度あてはまりますか。現在働いていない方は、もっとも最近の職場について、お答えください。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
A 勤務時間を柔軟に決められる	1	2	3	4
B 仕事の手順を自分で決められる	1	2	3	4
C 仕事の量を自分で決められる	1	2	3	4
D 休日や休暇を自分で決められる	1	2	3	4
E 自分の仕事の負担をこなさないと、同僚の負担が増える	1	2	3	4
F 上下関係に関係なく、自由に話し合える	1	2	3	4
G 考え方や方針を十分に説明してくれる上司がいる	1	2	3	4
H 指導や助言をしてくれるベテランがいる	1	2	3	4
I 自己啓発を支援してくれる	1	2	3	4
J 教育や研修が効果的に実施されている	1	2	3	4
K 自分の仕事は、同じことを繰り返している感じがする	1	2	3	4
L 自分の能力を活かしている	1	2	3	4
M 努力しただけで昇進できる	1	2	3	4
N 自分がどれだけ成果を上げたかで、収入が変わる	1	2	3	4
O お金のためというより、仕事が好きだから働いている	1	2	3	4
P 仕事と生活の時間配分のパランスが取れている	1	2	3	4

Q22 あなたの現在の仕事について、次のことを、同僚とくらべてどの程度していますか。現在仕事をしていない方は、もっとも最近の仕事についてお答えください。

	同僚より かなり多い	同僚より 多い	同僚と 同じくらい	同僚より 少ない	同僚より かなり少ない	同僚は いない
A 割り当てられている仕事の量→	1.....	2.....	3.....	4.....	5.....	6
B アイデアの提案→	1.....	2.....	3.....	4.....	5.....	6
C 先輩や同僚へのサポート→	1.....	2.....	3.....	4.....	5.....	6

Q28 あなたの配偶者は、どのくらいの頻度で次のことをしていますか。

	ほぼ 毎日	週に 数回	週に 1回程度	月に 1回程度	年に 数回	年に 1回程度	まったく していない
A 夕食の用意	1	2	3	4	5	6	7
B 買い物(日用品や食料品の買い物)	1	2	3	4	5	6	7
C ゴミ出し	1	2	3	4	5	6	7

Q29 あなたは、配偶者が以下のことをする時間を増やしてほしいですか、減らしてほしいですか。

	増やしてほしい	少し増やして ほしい	いまのままで よい	少し減らして ほしい	減らしてほしい
A 仕事をする時間	1	2	3	4	5
B 趣味に費やす時間	1	2	3	4	5
C 家族と過ごす時間	1	2	3	4	5
D 家事をする時間	1	2	3	4	5

ここからは結婚している方も、していない方もお答えください。

Q30-1 あなたは、これから子どもがほしいですか。すでにお子さんがいる方は、さらにもう一人ほしいですか。

1	2	3	4	5
ぜひほしい	ほしい	どちらともいえない	あまりほしくない	絶対ほしくない

Q30-2 その子どもは、いつほしいですか。

1	1年以内に	4	いつでもよい
2	2～3年以内に	5	現在、妊娠している
3	4年以上たってから		

Q30-3 今いるお子さんを含めて、全部で何人の子どものほうがほしいですか。

人

Q31 あなたに子どもができたとなると、以下の項目は現在と比べて、どう変わると思いますか。すでにお子さんがいる方は、もう一人増えた場合についてお答えください。

	ずっと良くなる	良くなる	変わらない	悪くなる	ずっと悪くなる
A 生活水準	1	2	3	4	5
B やりたいことをやる自由	1	2	3	4	5
C 就職や昇進の機会	1	2	3	4	5
D 友人とのつきあい	1	2	3	4	5
E まわりからの評価	1	2	3	4	5
F 心の安らぎ	1	2	3	4	5
G 生活全般の満足度	1	2	3	4	5

Q32 あなたは、子育てについて悩んでいることがありますか。あてはまることすべてに○をつけてください。お子さんがいない方は番号10に○をつけてください。

1 子どもの世話	6 子どもの生活態度
2 子どものしつけ	7 子どもの学業成績
3 子どもとのコミュニケーションの取り方	8 子どもの教育費
4 地域の子育て環境	9 その他(具体的に_____)
5 子どもとの友達関係	10 特に悩みはない・子どもはいない

Q33 子どもの教育に関する次の意見について、あなたはどのように思いますか。お子さんのいない方は、ご自分のお子さんがある場合を想像して、お答えください。

	そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わない	そう思わない
A 子どもには、自分が受けたのと同じ、あるいはそれ以上の段階の学校まで進んでほしい	1	2	3	4
B 子どもには、大学に進学するよりも、早く就職してほしい	1	2	3	4
C 子どもの教育にはできる限りお金をかけたい	1	2	3	4

Q34 次のA～Eの意見について、あなたは賛成ですか、反対ですか。

	賛成	どちらかとい えば賛成	どちらかとい えば反対	反対
A 結婚しても、相手に満足できないときは、いつでも離婚すればよい	1	2	3	4
B 男性も身の回りのことや炊事をすべきだ	1	2	3	4
C 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
D 母親が仕事をもつと、小学校へあがる前の子どもによくない影響を与える	1	2	3	4
E 妻にとっては、自分の仕事をもつよりも、夫の仕事の手助けをする方が大切である	1	2	3	4

Q35 あなたが個人的な悩みやストレスを多く抱えたとしたら、誰に相談したいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 親	6 近所の人
2 兄弟姉妹	7 医師・カウンセラーなどの専門家
3 配偶者・恋人	8 その他(具体的に_____)
4 子ども	9 誰にも相談しない
5 友人	

Q36 あなたのお宅では以下のものを所有していますか。所有しているものすべてに○をつけてください。

- 1 自家用車
- 2 バイク
- 3 大画面の薄型テレビ
- 4 衣類乾燥機（洗濯機と一体型も含む）
- 5 株券・債券
- 6 いずれも持っていない

Q37 あなたのお宅で、これだけは減らしたくない支出はどれですか。以下の項目のうち、1つに○をつけてください。

- 1 食事に関係する費用
- 2 衣服に関係する費用
- 3 住まいに関係する費用
- 4 インターネットや携帯電話などの通信に関係する費用
- 5 子どもの教育に関係する費用
- 6 余暇に関係する費用
- 7 その他（具体的に)

ここからはあなたの学生時代のことについておうかがいします。

Q38 中学生の頃、あなたは運動系のクラブ活動に熱心に取り組んでいましたか。

- | | | | | | |
|-------|---------------|---------------|-----------------|------------------|----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 熱心だった | ある程度
熱心だった | どちらとも
いえない | あまり熱心
ではなかった | まったく熱心
ではなかった | 運動系クラブには
入っていなかった |

Q39 中学生の頃、あなたは文化系のクラブ活動に熱心に取り組んでいましたか。

- | | | | | | |
|-------|---------------|---------------|-----------------|------------------|----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 熱心だった | ある程度
熱心だった | どちらとも
いえない | あまり熱心
ではなかった | まったく熱心
ではなかった | 文化系クラブには
入っていなかった |

Q40 中学3年生の頃、あなたの成績は学年の中でどれくらいだったと思われますか。

- | | | | | |
|-----|-------|---------|-------|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 下の方 | やや下の方 | 真ん中のあたり | やや上の方 | 上の方 |

Q41 あなたが15歳の頃のあなたの世帯収入は、当時の平均的な世帯と比べて、どうでしたか。

- | | | | | |
|----------------|-------------|------|------------|---------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 平均より
かなり少ない | 平均より
少ない | ほぼ平均 | 平均より
多い | 平均より
かなり多い |

Q42-1 あなたは高校（高専を含む）に通ったことがありますか。

- | | |
|----|----|
| 1 | 2 |
| ある | ない |

Q42-2 高校生の頃、あなたは運動系のクラブ活動に熱心に取り組んでいましたか。

- | | | | | | |
|-------|---------------|---------------|-----------------|------------------|----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 熱心だった | ある程度
熱心だった | どちらとも
いえない | あまり熱心
ではなかった | まったく熱心
ではなかった | 運動系クラブには
入っていなかった |

Q42-3 高校生の頃、あなたは文化系のクラブ活動に熱心に取り組んでいましたか。

- | | | | | | |
|-------|---------------|---------------|-----------------|------------------|----------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 熱心だった | ある程度
熱心だった | どちらとも
いえない | あまり熱心
ではなかった | まったく熱心
ではなかった | 文化系クラブには
入っていなかった |

Q42-4 3年生の頃、あなたの学校での成績は学年の中でどれくらいだったと思われますか。

- | | | | | | |
|-----|-------|-------------|-------|-----|--------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 下の方 | やや下の方 | 真ん中の
あたり | やや上の方 | 上の方 | 3年生まで在学
していなかった |

Q42-5 3年生の同じクラスで、大学や短大に進学した人はどのくらいいましたか。

- | | | | | | |
|------|------|-------|------|-------------|--------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ほぼ全員 | 7～8割 | 半数くらい | 2～3割 | ほとんど
いない | 3年生まで在学
していなかった |

Q43 あなたが18歳になった頃（高校3年生の頃）、どこまで進学したいと思っていましたか。

- 1 中学まで
- 2 高校まで
- 3 専門学校まで
- 4 短大・高専まで
- 5 大学まで
- 6 大学院まで
- 7 何も考えていなかった

Q44-1 あなたは大学（短大を含む）に通ったことがありますか。

1	2												
ある	ない												
Q44-2 大学生の頃、あなたは運動系のクラブ・サークル活動に熱心に取り組んでいましたか。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> <tr> <th>熱心だった</th> <th>ある程度熱心だった</th> <th>どちらともいえない</th> <th>あまり熱心ではなかった</th> <th>まったく熱心ではなかった</th> <th>運動系クラブなどには入っていません</th> </tr> </thead> </table>		1	2	3	4	5	6	熱心だった	ある程度熱心だった	どちらともいえない	あまり熱心ではなかった	まったく熱心ではなかった	運動系クラブなどには入っていません
1	2	3	4	5	6								
熱心だった	ある程度熱心だった	どちらともいえない	あまり熱心ではなかった	まったく熱心ではなかった	運動系クラブなどには入っていません								
Q44-3 大学生の頃、あなたは文化系のクラブ・サークル活動に熱心に取り組んでいましたか。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> <tr> <th>熱心だった</th> <th>ある程度熱心だった</th> <th>どちらともいえない</th> <th>あまり熱心ではなかった</th> <th>まったく熱心ではなかった</th> <th>文化系クラブなどには入っていません</th> </tr> </thead> </table>		1	2	3	4	5	6	熱心だった	ある程度熱心だった	どちらともいえない	あまり熱心ではなかった	まったく熱心ではなかった	文化系クラブなどには入っていません
1	2	3	4	5	6								
熱心だった	ある程度熱心だった	どちらともいえない	あまり熱心ではなかった	まったく熱心ではなかった	文化系クラブなどには入っていません								
Q44-4 大学生の頃、あなたはどれくらい熱心に授業に取り組んでいましたか。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> <tr> <th>熱心だった</th> <th>ある程度熱心だった</th> <th>どちらともいえない</th> <th>あまり熱心ではなかった</th> <th>まったく熱心ではなかった</th> </tr> </thead> </table>		1	2	3	4	5	熱心だった	ある程度熱心だった	どちらともいえない	あまり熱心ではなかった	まったく熱心ではなかった		
1	2	3	4	5									
熱心だった	ある程度熱心だった	どちらともいえない	あまり熱心ではなかった	まったく熱心ではなかった									

ここからは、あなたの暮らし向きについて、おうかがいします。

Q45 この2～3年の間に、あなたの経済状態はどう変わりましたか。

1	2	3
良くなった	悪くなった	変わらない

Q46 世間一般と比べて、あなたの世帯収入はどれくらいですか。

1	2	3	4	5
平均よりかなり少ない	平均より少ない	ほぼ平均	平均より多い	平均よりかなり多い

Q47 今の日本の社会には、あなたやあなたの家族の生活水準を向上させる機会が、どのくらいありますか。

1	2	3	4	5
充分にある	少しはある	どちらともいえない	あまりない	まったくない

Q48 かりに現在の日本の社会全体を、以下の5つの層にわけるとすれば、あなた自身は、どれに入りますか。

1	2	3	4	5
上	中の上	中の中	中の下	下

Q49 現在、あなたはどの政党を支持していますか。1つだけ選んでください。

1	2	3	4	5	6	7	8
自民党	民主党	公明党	共産党	社民党	その他の政党 ()	特に支持する 政党はない	わから ない

Q50 これからの日本のあるべき姿として、あなたのイメージにもっとも近いのはどれですか。

1	2	3	4
アメリカのような競争 と効率を重視した社会	北欧のような 税は高率だが 福祉を重視した社会	かつての日本のような 終身雇用を重視した社会	その他 (具体的に)

Q51 人間の本性について、あなたはどのようにお考えですか。番号（1～7）を1つ選んでください。

人間の本性は 本来「悪」である	人間の本性は 本来「善」である
1	7
2	6
3	5
4	4

Q52 あなた自身についてお答えください。次のA～Hの項目は、あなたにどれくらいあてはまりますか。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
A あらゆることにプラス思考で挑戦する	1	2	3	4
B 自分の考えを他人にはっきり説明できる	1	2	3	4
C 他人とは違う「自分流」のものを持っている	1	2	3	4
D 友人に頼りにされている	1	2	3	4
E 考え方が保守的である	1	2	3	4
F できるだけ尊敬される地位につきたい	1	2	3	4
G できるだけ高い収入を得たい	1	2	3	4
H ある程度はつらい思いをしないと成長できないと思っている	1	2	3	4

Q53 あなたは以下のことがどのくらいできますか。A～Cのそれぞれについて、お答えください。

	非常に できる	よく できる	少しは できる	あまり できない	ほとんど まったく できない
A 英字新聞の短い記事を読む	1	2	3	4	5
B 英語でおしゃべりする	1	2	3	4	5
C 英語で手紙を書く	1	2	3	4	5

Q54 最後に、現在の時刻をご記入ください。

時	分
---	---

長時間のご協力、誠にありがとうございました。担当の調査員にお渡しください。